システムキッチン

フロアユニット　ウォールユニット　取付部材
取付・設置説明書

■取付・設置開始前に必ずお読みください。
■取付・設置者の安全と使用者の安全確保のために、この取付・設置説明書をよくお読みになり、安全で正しい取付・設置をおこなってください。
■システムキッチン本体組立・設置とそれにともなう関連工事（建設工事等）は区別しておこなってください。関連工事については法令・規定にしたがった工事（有資格者等による）が必要になります。
■梱包材や残材は、「廃棄物処理法」に従って適切に処理してください。
■取扱説明書は、必ずお客さまにお渡しください。
（取付・設置完了後、使い方を説明してください。）

LIXIL
Link to Good Living

INDEX

必ずお守りください…… 3

設置前の確認…… 4

工事区分…… 4

各部の名称…… 6

設置手順…… 6

1．事前工事 …… 7

2．取付位置・基準線の出し方 …… 8

3．同梱部品一覧 …… 8

4．ウォールユニットの取付け …… 9

5．各種ウォールユニットの取付け …… 11

6．フロアユニットの取付け …… 13

7．各種キャビネットの補足事項 …… 15

8．ワークトップの取付け …… 15

9．L型ワークトップの連結と研磨手順 …… 18

10．水栓金具・浄水機能付水栓の取付け…… 21

11．排水部品の取付け…… 21

12．食器洗い乾燥機の配管および接続…… 24

13．取付部材…… 24

14．調整方法…… 28

15．仕上げ・付属部品の取付け…… 31

16．取付・設置担当者へのお願い…… 32

この説明書はお客さまに必ずお渡しください。

必ずお守りください

表示について

この取付・設置説明書では、製品を安全に正しく取付・設置し、お客さまや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、下の表示をおこなっています。いずれも使用者の安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠ 警告 この表示を無視して、誤った設置をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った設置をすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

この記号は禁止の行為であることを告げるものです。

この記号は必ず実行していただきたいことを告げるものです。

シンクキャビネットに同梱されている取扱説明書は、お客さまにお渡しする大切な書類です。
紛失や汚れが生じないように大切に保管し、取付・設置完了後、お引き渡し時にお客さまにお渡しください。

⚠ 警告

ステンレス製ワークトップやシンクを取扱うときは、必ず保護手袋を着用する。
切断面にさわると、ケガをするおそれがあります。
キッチン取付・設置

ウォールユニットの設置は、建築壁の構造を確かめて正しく取付ける。
ウォールキャビネットが落下して、ケガをするおそれがあります。
大工工事（取付下地） キッチン取付・設置

フロアキャビネットの設置は、建築床の構造を確かめて正しく取付ける。
床がたわんだり、床が損傷するおそれがあります。

電気工事・管工事は、関連する法令、規定に従って、必ず「有資格者」がおこなう。
火災、感電、ガス漏れ、水漏れの原因になることがあります。

建設工事（電気工事、管工事、大工工事、建具工事など）は、関連する法令、規定に従って必ず「有資格者」がおこなう。
守らない場合は、法令に違反します。

⚠ 注意

棚板を設置するときは、棚受を隙間のないよう根本まで確実に差し込む。
棚板がはずれ収納物が落下して、ケガをするおそれがあります。

排水器具・排水ホースの取付けおよび給排水管の接続部分のシールは、説明書どおり正しくおこなう。
水が漏れたり、湿気が上がり床などが腐るおそれがあります。不快な臭いや、カビの発生原因になることがあります。
管工事

排水ホースはU字型に曲げたり、折曲げて取付けない。
排水能力が低下してシンクから水があふれ、床を汚すおそれがあります。
管工事

取付・設置完了後は、扉の傾き、ガタつき、丁番のゆるみのないことを必ず確認する。
使用中に扉が落下して、ケガをするおそれがあります。

組込まれる電気機器・調理機器・レンジフード・その他機器については、それぞれの施工(取付・設置)説明書および製品本体の表示事項を守り、正しく設置する。
思わぬ事故や故障の原因になることがあります。
電気工事 キッチン取付・設置

水栓の取付けは必ず施工（取付・設置）説明書および製品本体の表示事項を守り、正しく設置する。
水やお湯が漏れ、床を汚したり損害が出るおそれがあります。
管工事 キッチン取付・設置

キャビネットを設置する際には水平・垂直のレベルを出す。
レベルが出ていないと、引出しキャッチ機構が正常に動作しません。
キッチン取付・設置

取付け・仕上げに使われる、溶剤、接着剤、洗剤、その他薬品類については、記載されている注意事項に従って、正しく使用する。
誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、使用部材の損傷や、劣化の原因になります。
キッチン取付・設置

キッチン両隣に壁がくる場合は、キッチンの間口寸法より5㎜以上広いことを必ず確認する。
狭いとキッチンが設置できないおそれがあります。

引出しを開けた時に鏡板が建築物側の枠材に当たらないよう、クリアランスをとって設置する。
クリアランスを十分とらないと、引出しを開けた時に鏡板がドア縁や巾木に当たるおそれがあります。

本製品のホルムアルデヒド発散区分

表示内容					
1	商品名	システムキッチン	6	ホルムアルデヒド発散材料区分詳細	PB　F☆☆☆☆ MDF　F☆☆☆☆ 合板　F☆☆☆☆ 接着剤　F☆☆☆☆
2	企業名	株式会社　LIXIL			
3	ホルムアルデヒド発散区分	内装仕上げ部分及び下地部分とも　F☆☆☆☆			
4	表示ルール	「住宅部品表示ガイドライン」 キッチン・バス工業会表示指針による	7	本表示に対する お問い合せ先	お客さま相談センター TEL・FAXは、キッチン取扱説明書（ウラ表紙）に記載。
5	製造番号又は年月日	キャビネット本体に貼付の検査証によりご確認ください。			

VOC放散性能	4VOC基準適合（木質建材）
表示ルール	住宅部品VOC表示ガイドラインによる

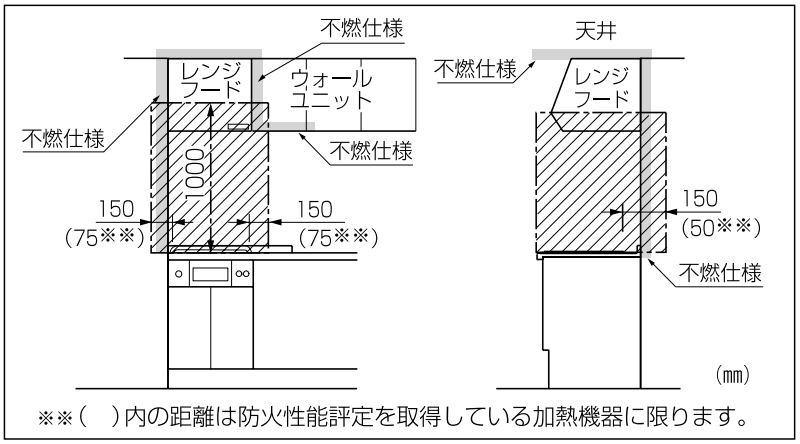
※4VOCとは、トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレンを示す。

設置前の確認

火災予防条例（東京都）では、右図斜線内に可燃物があってはならないと規定されています。

- 斜線内に入るウォールユニットやエンドパネルは、不燃仕様のものを設置し、斜線内に入る壁面は関連する法令・規定に準じ不燃材を使用してください。
- レンジフードに隣接するウォールユニットやエンドパネルは不燃仕様のものを設置し、壁面および天井は関連する法令・規定に準じ、不燃材を使用してください。

（下地が準不燃材以下で仕上げている場合は、加熱機器を運転させたときに下地の表面が室温を35℃で100℃を超えないことが条件です。詳細に関しては、各自治体へ確認ください。）



※※（　）内の距離は防火性能評定を取得している加熱機器に限ります。

これ以上に規定されている地域もありますので、地域の条例に従ってください。

※詳しくは【所轄の消防署】へ確認してください。

1. 設置場所の水平・垂直・コーナーの直角等のレベルがでているか確認してください。
2. 給水湯管・排水管の位置を確認してください。
3. 加熱機器の配管、配線接続位置を確認してください。
4. 電気製品の配線接続位置を確認してください。
5. ウォールユニットを取付ける壁面の強度、また必要な箇所に取付桟がはいっているかを確認してください。
6. 天吊型ウォールキャビネットを取付ける天井の強度、また必要な個所に取付桟がはいっているかを確認をしてください。
7. 窓枠、ドア枠などと製品（扉や引出しに干渉しない。引出しなどが完全に引出せるか）が干渉しないか確認してください。
8. 注文した製品と納入された製品の左右勝手、ガス種、周波数などを確認してください。
9. 付属部品を確認してください。
10. ガスコックと引出しの背板が干渉しないことを確認してください。

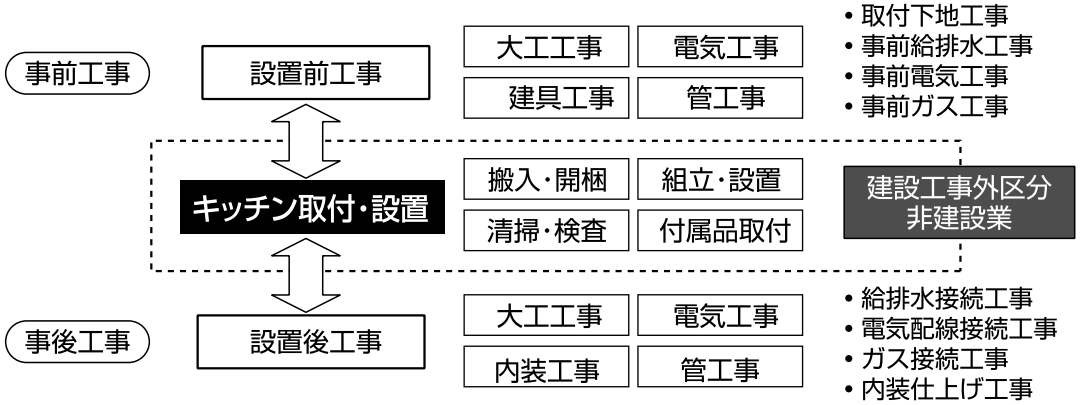
※※上記内容に不備がある場合は手直しが必要です。建設工事として手直しが必要な部分は関連する法令・規定にしたがって工事をおこなってください。

工事区分

⚠警告

本説明書は、キッチンの本体組立・設置と関連工事（建設工事）である大工工事、電気工事、ガス配管工事、管工事（給排水）、建具工事などと区別して説明しています。
建設工事は、関連する法令・規定に従って法的有資格者による工事が必要になります。
流通業者様（販売店様等）からの発注で下請けとして「本体の取付・設置」をおこなう場合は、建設工事部分と「キッチン本体取付・設置」を区別しておこなってください。

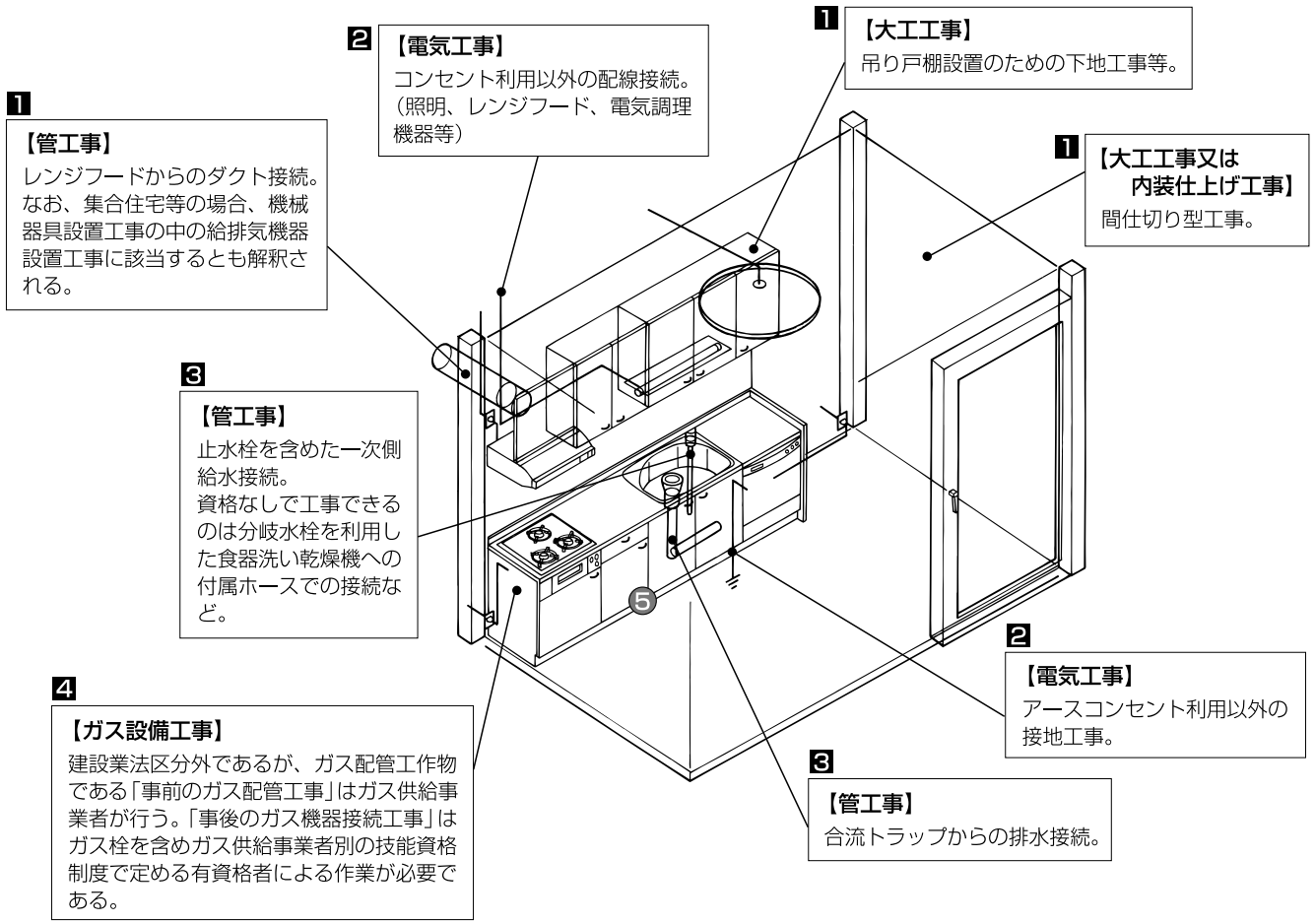
■「キッチンの取付・設置」とユニット工事区分



■キッチンの工事区分〈例示〉

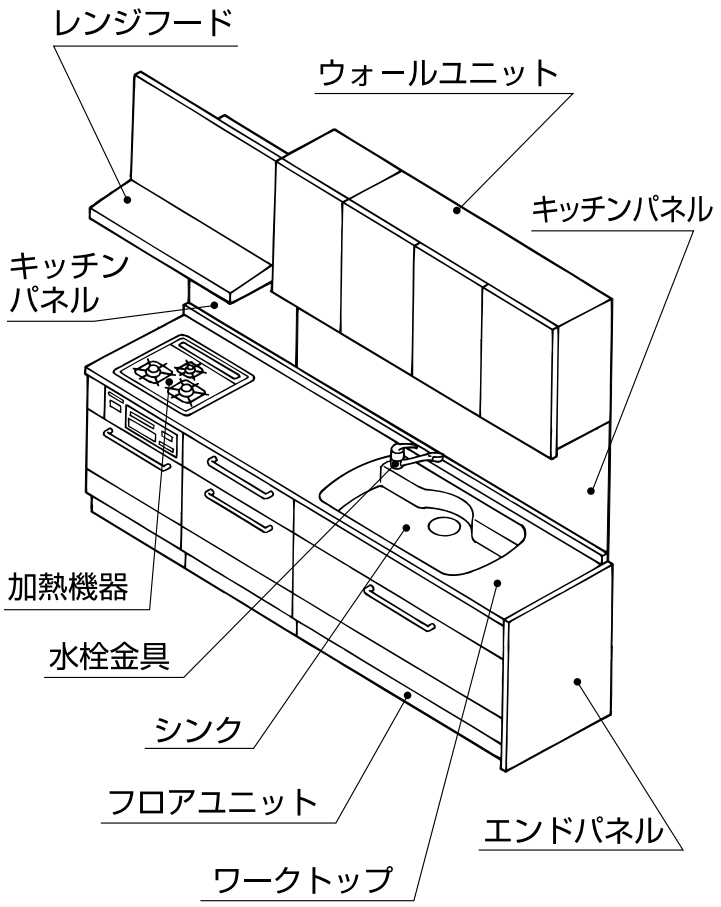
ユニット工事区分	部位（図）		作業名称（区分）	建設業区分 大工工事業	管工事業	電気工事業	建設業外 ガス設備	キッチン取付	作業内容
事前工事	1	大工工事 管工事	外壁の開口工事	○	○				レンジフードのダクト用の建築壁の穴あけ工事
			建築壁の下地処理工事	○					キャビネット等の取付けのための壁下地処理工事
			排気ダクトの関連工事		○				建築物の事前ダクト配管等の工事
			キッチンパネル下地処理工事	○					キッチンパネルを貼る為の建築壁の下地処理工事
	2	電気工事	レンジフードの電源アース工事			○			建築の屋内配線と配線器具（コンセント）工事
			加熱機器の電源アース工事			○			加熱機器の事前電気工事
			ウォールキャビネットの電気工事			○			屋内配線と配線器具（照明）接続、検査工事
			電動昇降機の電源工事			○			電動昇降機の専用電源・アース工事
			食器洗い乾燥機の電源･アース工事			○			食器洗い乾燥機用の専用電源・アース工事
	3	管工事	排水配管の立上工事		○				キッチン排水用の所定位置排水管立上工事
			給水・給湯配管立上工事		○				キッチン専用の所定位置配管立上工事
			食器洗い乾燥機用給排水配管工事		○				食器洗い乾燥機用の専用給水給湯排水事前工事
	4	ガス工事	ガス調理機器のガス配管				□		ガス機器用の事前ガス配管工事
キッチン本体取付設置	5	建設工事区分外	キッチンパネル取付け					□	製品を加工して建築下地へ取付け
			製品間のシリコン充填					□	製品間の隙間を仕上げる処理作業
			レンジフードの取付け					□	本体及び化粧パネルを取付ける作業
			ウォールユニット取付け					□	所定の建築仕上げ壁へ取付ける作業
			電動昇降ウォールキャビネット取付け					□	電動昇降ウォールキャビネットを壁へ取付ける作業
			ベースキャビネット･天板の取付け					□	天板、キャビネットの組立･調整して設置する作業
			キッチン排水部品の組立					□	排水トラップ部品とシンクの組立
			水栓の組立・天板取付け					□	水栓、浄水器同梱部材の組立（天板への取付け）
			ビルトイン機器の取付け					□	ビルトイン機器のキッチン本体への組込作業
			試運転、完成品検査（注記１）					□	完成後の試運転、性能確認検査
事後工事	2	電気工事	ウォールキャビネット照明器具工事			○			事前配線の電源線と照明器具の接続、検査
			電気配線器具の取付け			○			スイッチ、コンセント等の電気配線工事
			レンジフードとダクト接続工事		○				建築ダクトとレンジフードの接続、検査
			その他電化機器の工事			○			電化機器と電源線、アースの接続工事
	4	ガス工事	ガス調理機器のガス管接続				□		ガス機器とガス配管の配管接続工事
	3	管工事	給水･給湯配管と水栓の接続		○				給水・給湯の一次側と水栓の接続、検査
			給水･給湯配管とオプション機器の接続		○				オプション機器と一次側給排水の接続、検査
			建築側排水管への接続工事		○				キッチン排水管と建築排水管の接続、検査

注記１）製品の完成品検査、試運転は、事後工事完成後おこなう場合が多い。

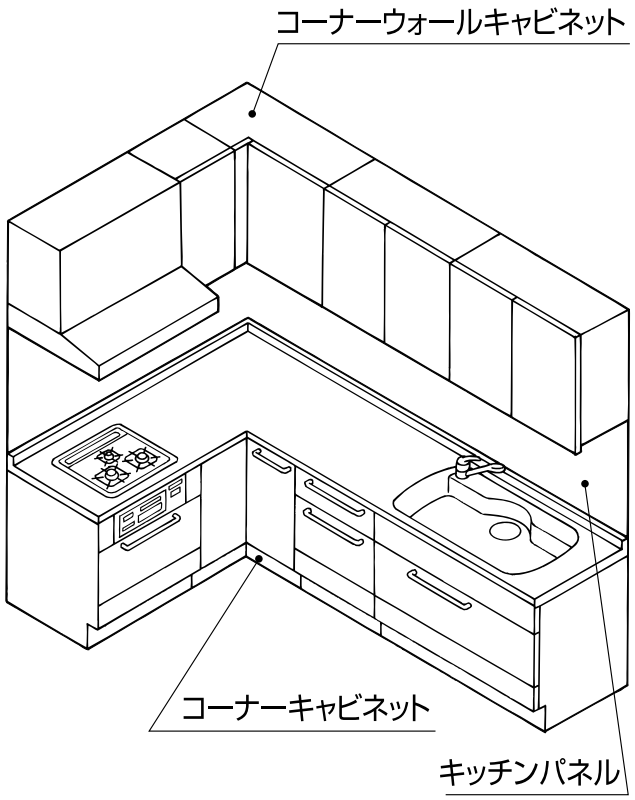


各部の名称

I 型レイアウト



L 型レイアウト



設置手順

取付下地の取付け	大工工事
配管の立上げ	管 工 事
電源線の取出し・コンセントの取付け	電気工事

↓

キッチンパネルの取付け	キッチン取付・設置

↓

レンジフードの取付け	キッチン取付・設置

↓

ウォールキャビネットの取付け ワークユニットの取付け	キッチン取付・設置

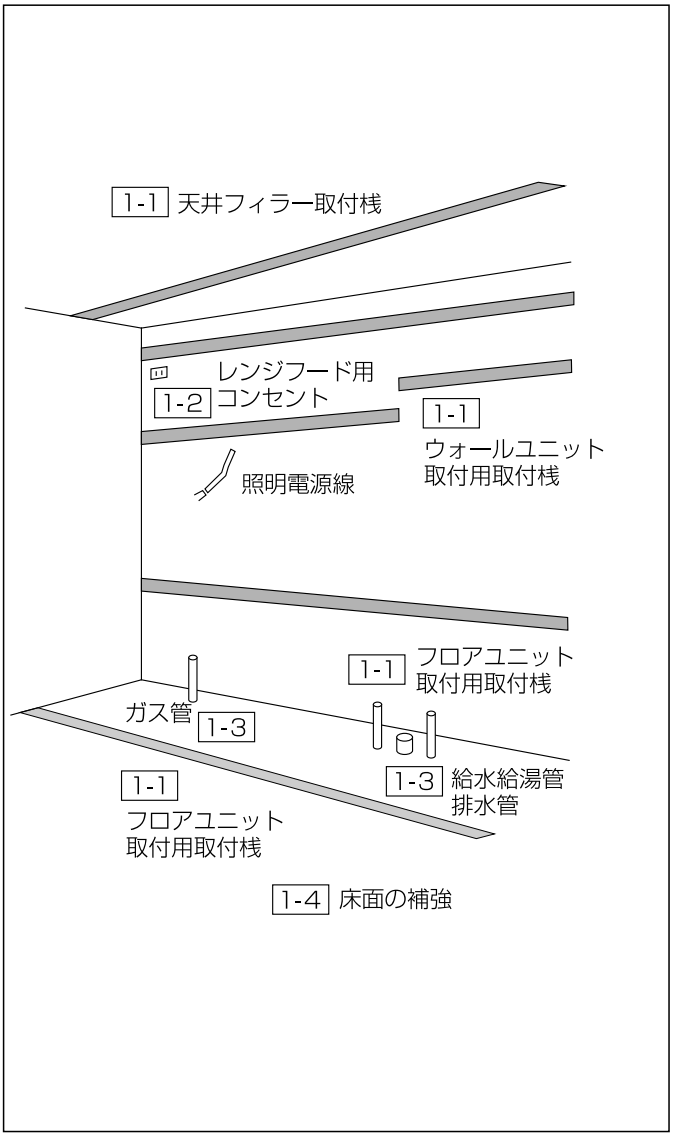
↓

レンジフードダクト、配管の接続	管 工 事
電源線の接続	電気工事
目地処理	内装工事

※キッチンと壁面床面等の間をコーキング等で目地処理（止水）する場合は、内装工事区分となる場合があります。

1 事前工事（建設工事）

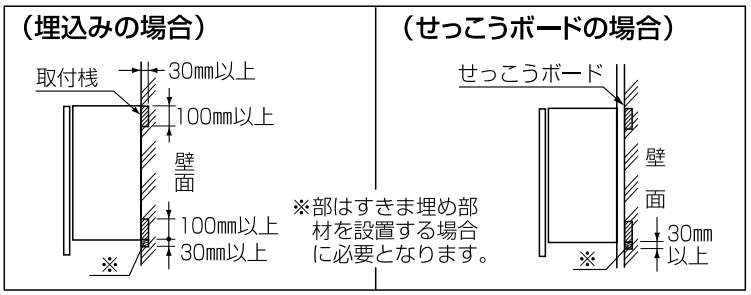
1-1 取付桟の取付け 大工工事

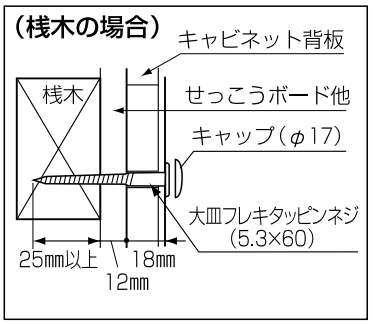


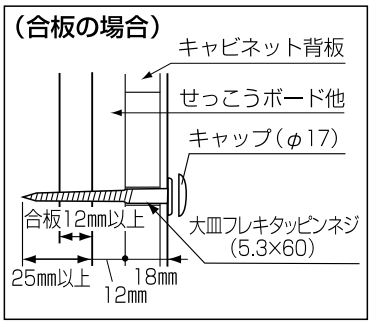
キャビネットを取付・設置する壁面に、取付桟を取付けるか、埋込んでください。
せっこうボードで仕上げる壁面は、せっこうボードの内側に取付桟を取付けてください。

⚠警告	**以下の事項と条件を必ず守って取付・設置する。** 守らないとウォールキャビネットが落下するおそれがあります。
	取付桟の取付けは、関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」がおこなう。

- 本体重量と収納重量の荷重に対して、取付桟が落ちないだけの強度をもたせる。
  （最大300kg／1キャビネット当たり）柱などに確実に固定。
- 取付桟は硬い材料（広葉樹、マツ･ツカ等の強度のある針葉樹および合板）で、虫くいや、くされのない木材を使用する。取付桟は厚さ30㎜以上、幅100㎜以上が必要です。
  （合板は厚さ12㎜以上あれば使用可能）
- 取付ネジは必ず、同梱しているネジを使用し、取付桟に25㎜以上かかるようにする。







1-2 電源線の取出し・コンセントの取付けについて 電気工事

⚠警告	**電源の取出し・コンセントの取付けは、関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」がおこなう。**

1-3 ガス管・給水給湯管・配水管の立上げについて 管工事

⚠警告	**配管の取付けは、関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」がおこなう。**

1-4 床面の補強工事について 大工工事

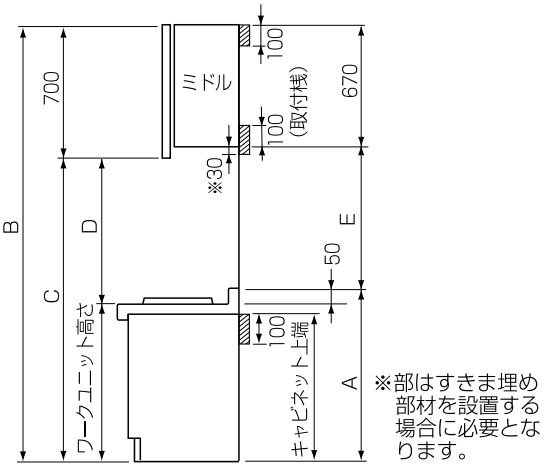
⚠警告	**床面の補強は、関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」がおこなう。**

200kg/1キャビネット程度の荷重があるので、それに耐えられる床の補強を依頼してください。
特に2重床の場合は補強用支持脚を225～310㎜程度の間隔で設置することをおすすめします。

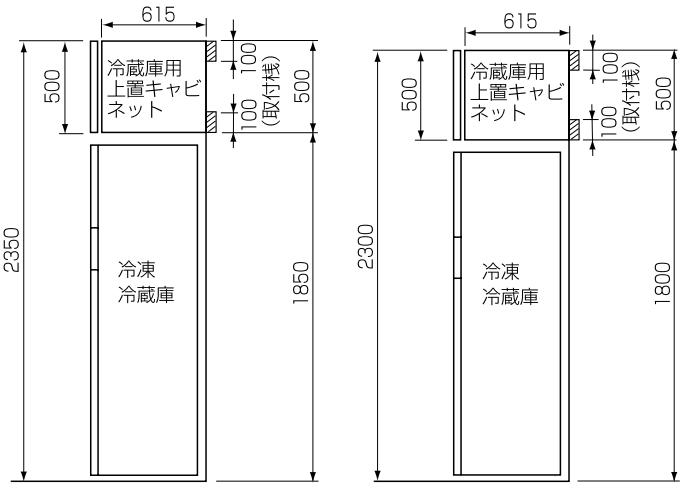
2 取付位置・基準線の出し方

2-1 取付位置

図の標準高さを参考にしてください。



※部はすきま埋め部材を設置する場合に必要となります。



※本図はウォールキャビネット高さH＝700の時を示す。

ワークユニット高さ	キャビネット高さ	A	B	C	D	E
800	778	850	2300	1600	800	780
850	828	900	2350	1650	800	780
900	878	950	2350	1650	750	730

2-2 基準線の出し方

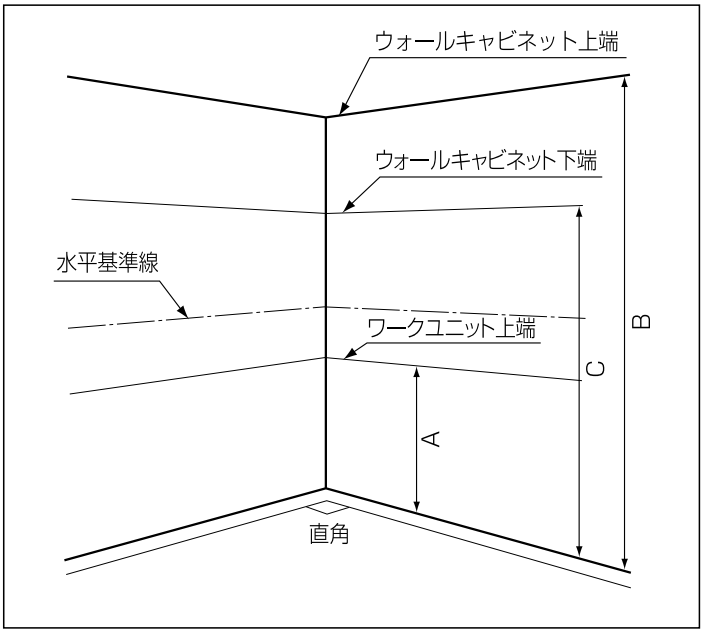
⚠注意

取付・設置前に必ず設置場所の水平、垂直、直角度、レベルなどを正確に調べる。これを基準にキャビネットを取付ける。
ウォールキャビネットの水平が出ていない場合、扉キャッチが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

①レーザーや水準器等で各コーナーにポイントを取り、水平基準線を打ってください。
水平基準線より上記の取付位置または施工図を参考に基準線を求めて墨を打ってください。
②床、壁面、天井の直角な交わりと水平、垂直をレーザーまたは水準器等で確認してください。

ワークユニット高さ	A	B	C
800	778	2300	1630
850	828	2350	1680
900	878	2350	1680

※本図はウォールキャビネット高さH＝700の時を示す。



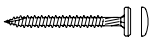
3 同梱部品一覧

⚠注意

必ず指定のネジ類を使用する。
使用しないと、商品の落下などによりケガの原因となります。

取付・設置で使用するネジを固定する場合は、しめすぎによるネジの空回り、頭つぶれのないようにする。
固定ネジがきかないと、キャビネットなどが落下してケガの原因となります。

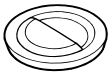
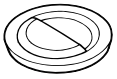
■同梱部品一覧表 （プランによっては付属されていない部品もあります）

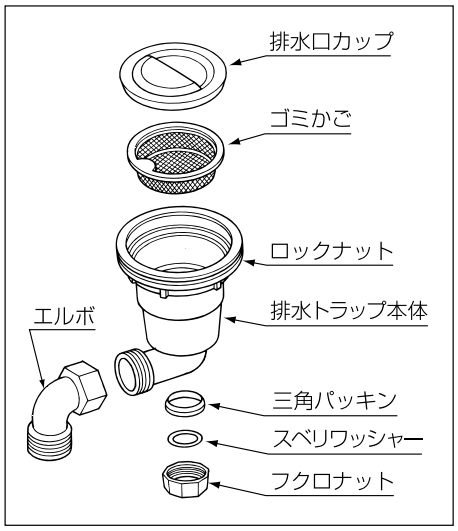
部品名		用途
大皿フレキタッピンネジ5.3×60（φ17キャップ付）		壁面固定用
皿タッピンネジ 4.5×27（頭白塗装）		連結用 エンドパネル固定用
皿木ネジ 3.3×32		ワークトップと キャビネットの固定用
トラスタッピンネジ 3.5×12		ワークトップと キャビネットの固定用

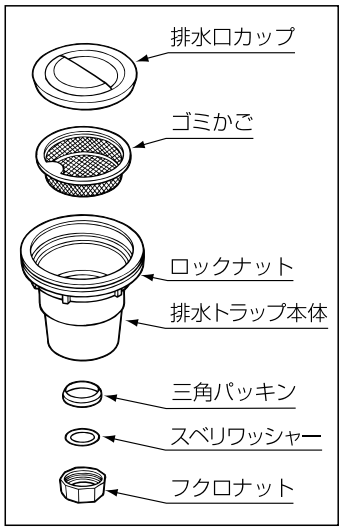
部品名		用途
ワークトップ 固定用金具		ワークトップと キャビネットの固定用
TU固定金具		トップ加熱機器開口まわり とキャビネットの固定用
トラスタッピンネジ 3.5×12		側板フィラー固定用
ナベタッピンネジ 3.5×12		排水カバー固定用

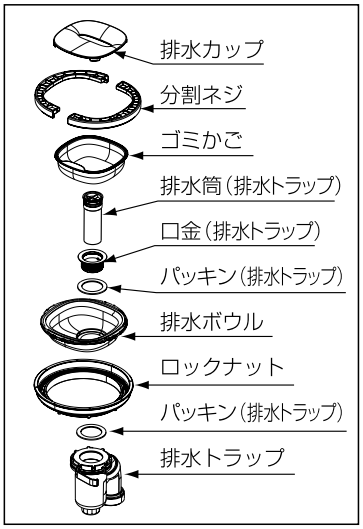
■排水セット部品

※ゴミ収納器付排水トラップは、シンクの種類により異ります。
※排水ホース・防湿キャップ・排水円板は別セットの為、含まれません。

人造大理石シンク	センターポケットシンク ラウンドシンク	フランジシンク	ラクリーンシンク
排水口カバー（人造大理石）	 排水カップ	 排水カップ	排水カップ

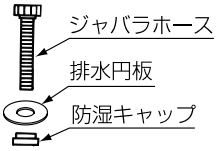




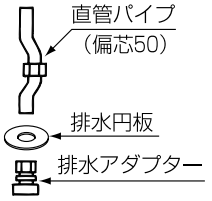


●別途手配品

排水ジャバラホースセット



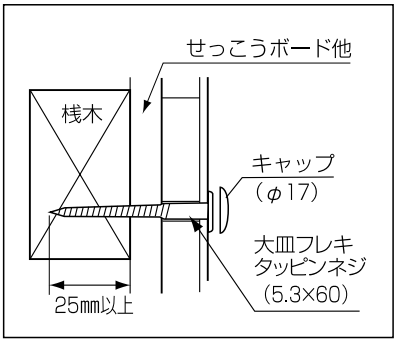
直管排水パイプセット

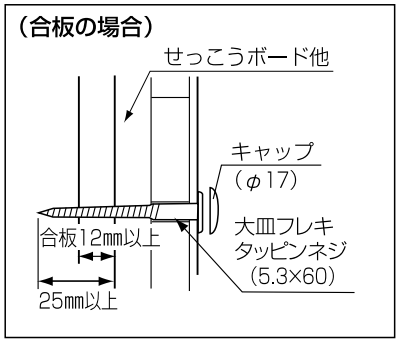


4 ウォールユニットの取付け

⚠警告 **以下の事項と条件を必ず守って設置する。**
守らないとウォールキャビネットが落下するおそれがあります。

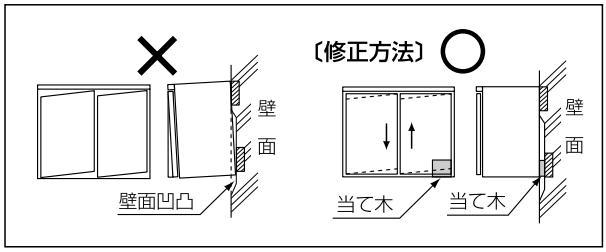
- 取付ネジをしめすぎて空回りしたり、ネジ頭をとばしたりしないよう確実に固定する。
- 取付ネジは必ず同梱しているネジを使用し、取付桟に25㎜以上かかるようにする。
- 躯体側にネジ下穴をあける場合はφ2.6～φ2.7であける。それ以上であけるとネジの保持力が弱くなります。

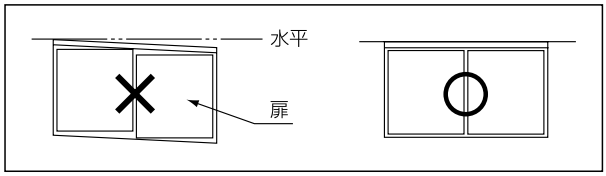




設置上のお願い

ウォールユニットを取付ける壁面に凸凹があると、扉の段違いが生じます。壁面は必ず平面にしてください。壁面に凸凹があり、扉の段違いが生じた場合は、図のように修正してください。

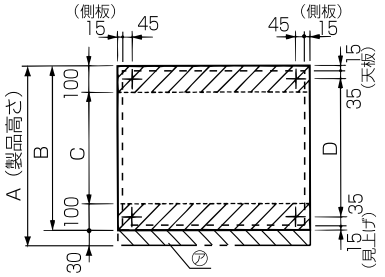




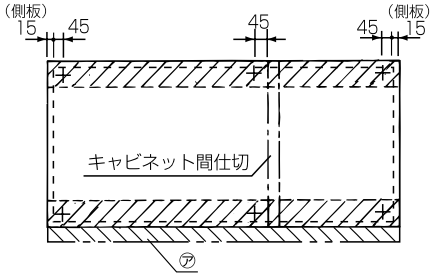
■取付桟位置・取付ネジ位置（単位：㎜）と取付ネジ本数

■ウォールキャビネット

●間口900以下の場合
（ネジ本数４本）



●間口900を
こえる場合
（ネジ本数６本）

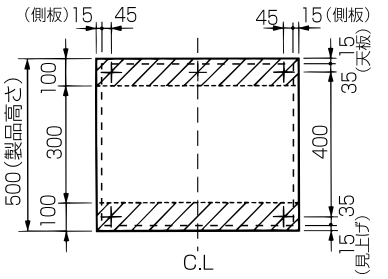


キャビネット	A	B	C	D
H＝700タイプ	700	670	470	570
H＝600タイプ	600	570	370	470
H＝500タイプ	500	470	270	370

※コーナー用ウォールキャビネットの取付位置は、間口750側背板：4ケ所、間口450側背板：2ケ所になります。
※㋐部のハッチングはすきま埋め部材を設置する場合に取付桟が必要となります。

■冷蔵庫用上置きキャビネット

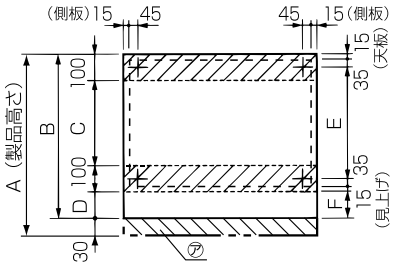
（ネジ本数５本）



■照明付ウォールキャビネット
■クイックパレット・シングルタイプ付ウォールキャビネット

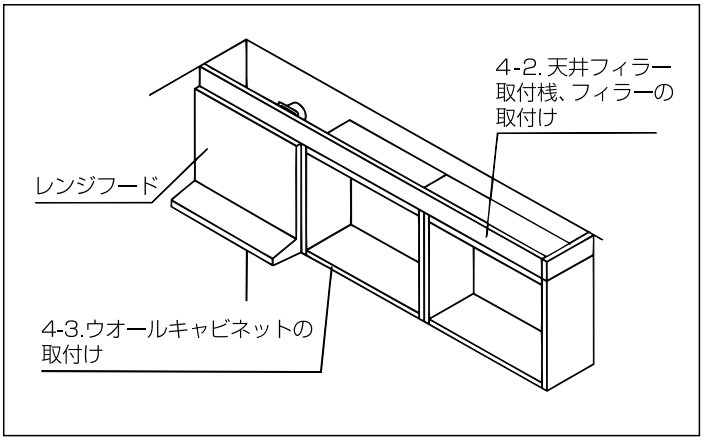
背面に配線用の切欠き溝があるキャビネットの場合は、必ず溝位置を避けて取り付ける。
取付け強度が得られないばかりか、コード断線のおそれがあります。

●間口900以下
（ネジ本数４本）



キャビネット	A	B	C	D	E	F
照明付（H＝700タイプ）	700	670	430	40	530	40
照明付（H＝600タイプ）	600	570	330	40	430	40
クイックパレット付（H＝700タイプ）	700	670	420	50	530	40

※㋐部のハッチングはすきま埋め部材を設置する場合に取付桟が必要となります



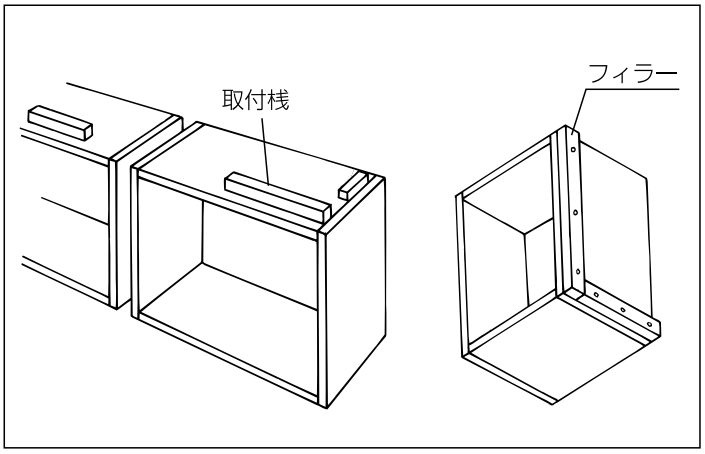
4-1 扉を取外す

「14. 調整方法」を参考に扉を外します。

4-2 天井フィラー取付桟、フィラーの取付け

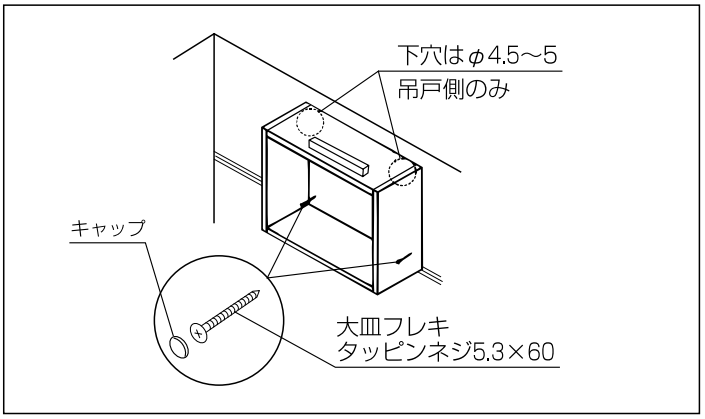
⚠注意
天井との間にフィラーなどを入れる
扉を開けたときに天井に当たるおそれがあります。

「13-2. 天井フィラーの取付け」（P25）を参考に天井フィラー取付桟、パネルフィラー、プレートフィラー（P26）を取付けます。

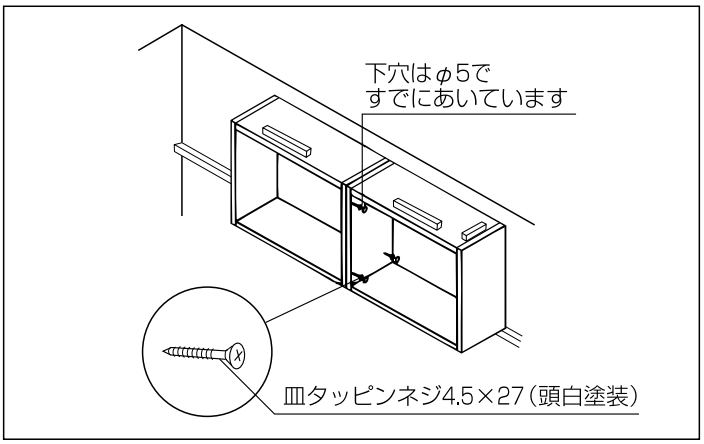


4-3 ウォールキャビネットの取付け

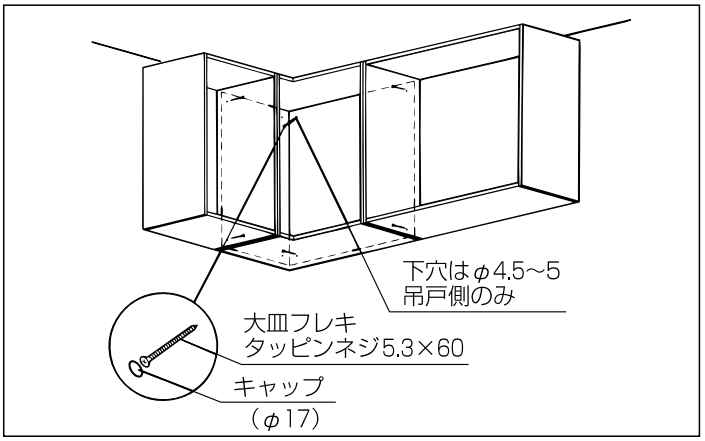
①背板に下穴をあけ、付属のネジでキャビネットを壁面に取付けます。
下穴の位置は、「■取付桟位置、取付ネジ位置と取付本数」を参照ください。



②キャビネット同士の側板の下面と前面の面合せをして、隣のキャビネットと付属の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で連結します。



4-4 ウォールキャビネットの取付け（コーナーキャビネット）



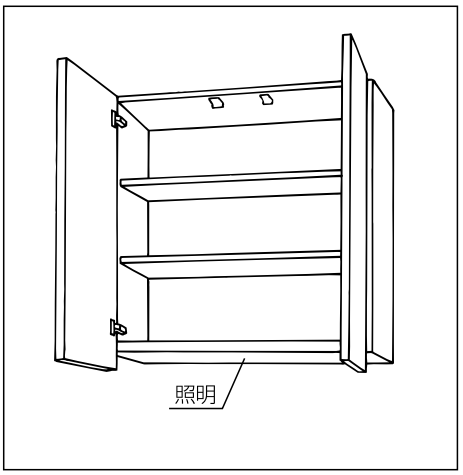
5 各種ウォールキャビネットの取付け

5-1 照明付ウォールキャビネットの取付け

照明付ウォールキャビネット

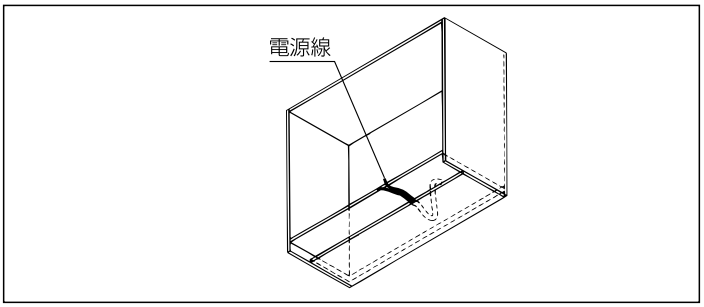
電気工事は関連する法令に従って、必ず「有資格者」がおこなう。
接続が不完全な場合は、発煙や火災の原因になります。

電源接続は完全におこなう。
接続が不完全な場合は、発煙や火災の原因になります。

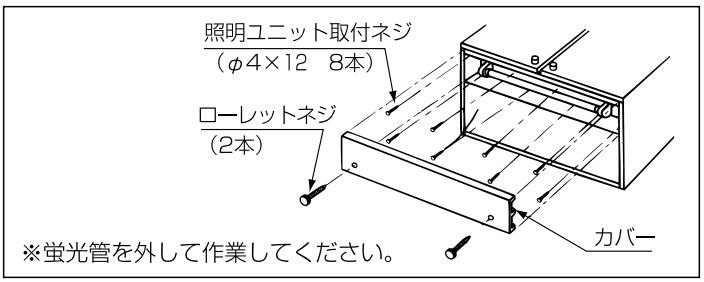


大皿フレキタッピンネジ5.3×60（φ17キャップ付）		壁面固定用
皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）		連結用
トラスタッピン４×12		照明取付用
照明取扱説明書		

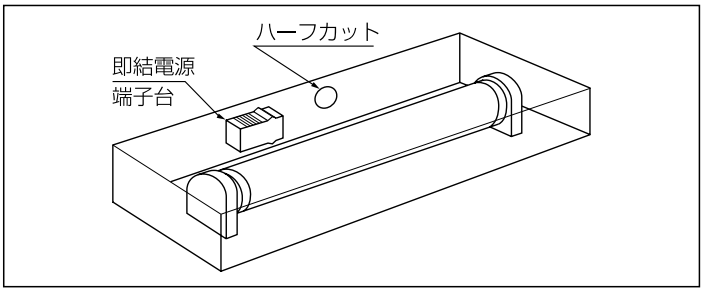
1. キャビネットの取付けは電源線を引込みながら「4-3 ウォールキャビネットの取付け」を参考にキャビネットを取付けます。



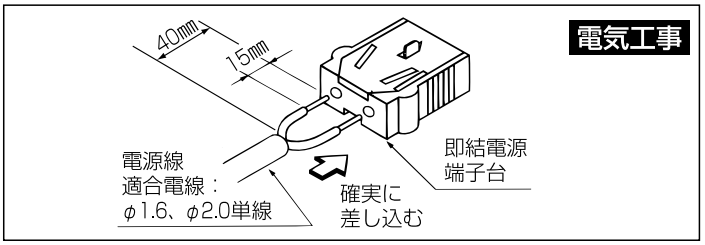
2. ローレットネジをゆるめてカバーを外し、電源線を照明ユニットの中に取込んでから照明ユニットを付属のビスでキャビネットに固定してください。



※蛍光管を外して作業してください。



3. 図のように即結電源端子台に電源線を差し込みます。



※照明ユニットに付属の取付・設置説明書をご確認ください。

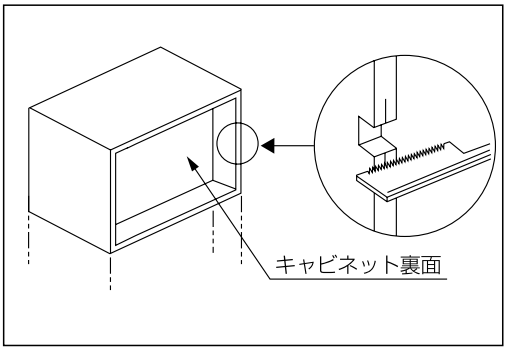
4. カバーを元の位置に戻してください。

5-2 棚下照明スペース付ウォールキャビネットの取付け

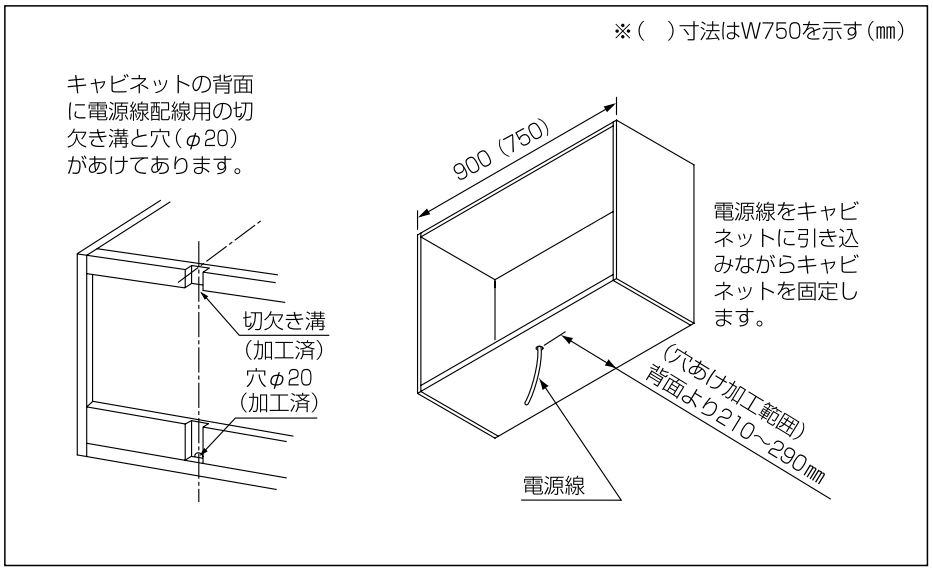
電気工事は関連する法規に従って、必ず「有資格者」がおこなう。
接続が不完全な場合は、発煙や火災の原因になります。

電源接続は完全におこなう。
接続が不完全な場合は、発煙や火災の原因になります。

キャビネットの取付け
電源線を引込みながら「4-3ウォールキャビネットの取付け」を参考に取付けます。電源線をほかから引いてくる場合は、側板、天板の後部を下図のように切欠いて、配線してください。

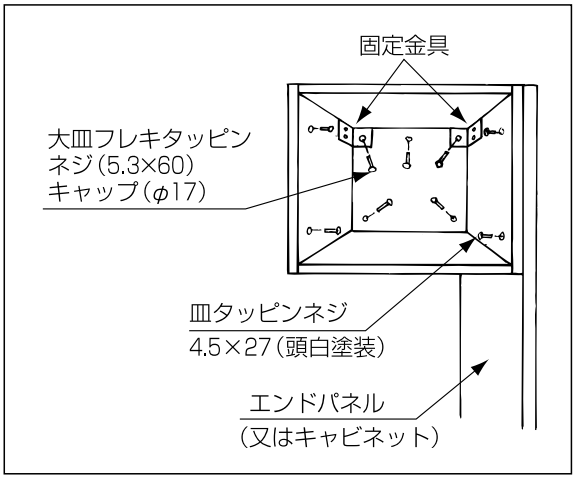


※（　）寸法はW750を示す（㎜）



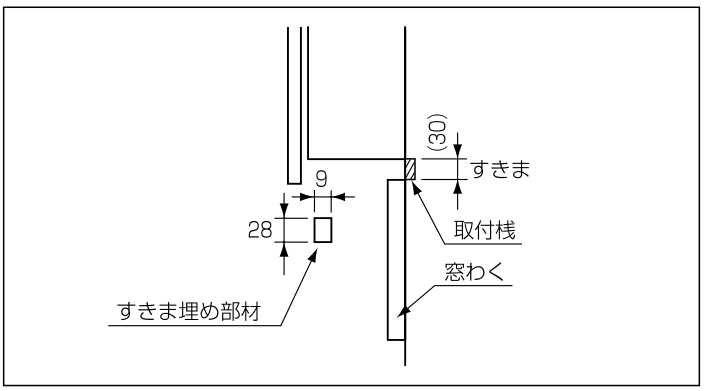
5-3 冷蔵庫上部用キャビネットの取付け

1. キャビネット背板の取付ネジ位置にあらかじめ下穴（φ4.5～φ5）をあけてください。
2. 図のように5ケ所を同梱の大皿フレキタッピンネジ（5.3×60）で壁面に固定してください。
3. 大皿フレキタッピンネジ（5.3×60）の頭に同梱のキャップ（φ17）を取付けてください。
4. 隣にエンドパネル、キャビネット又は壁がある場合は必ず皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で固定してください。



5-4 すきま埋め部材の取付け

ウォールキャビネット下の小さなすきま（30㎜）を仕上げるため、必要に応じすきま埋め部材（別途手配）を使用します。取付け方はすきま埋め部材に同梱の取付・設置説明書を参照ください。
すきま埋め部材は、ビスにて固定しますので必ず取付桟の有無をご確認ください。



5-5 その他のウォールキャビネットの取付け

（部材に同梱の「取付・設置説明書」を参照し取付けてください。）
- ダウンウォール
- オートダウンウォール

6 ワークユニットの取付け

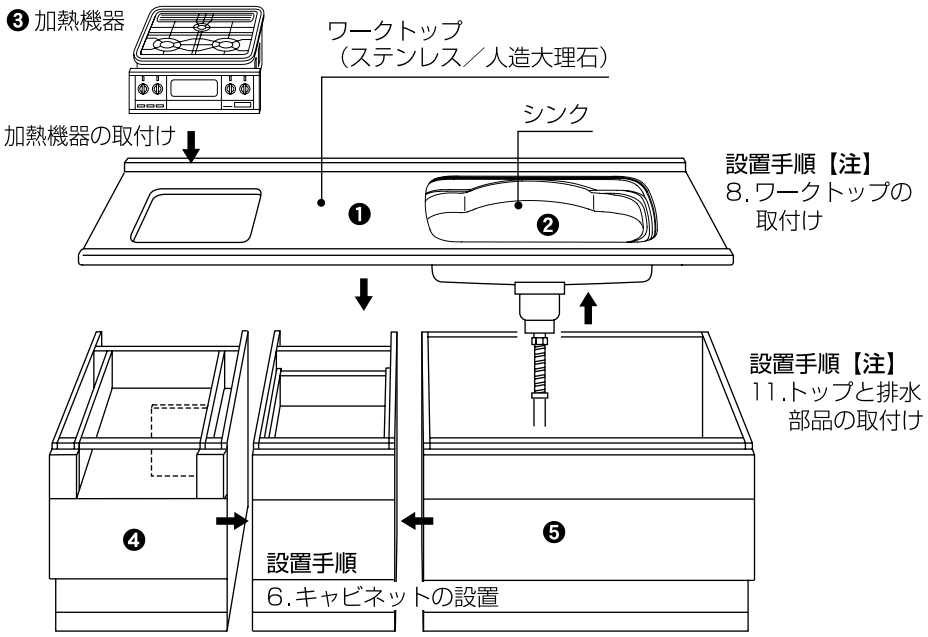
■部材構成

下記のユニット部材を現場で組立てるシステムになっています。各部材をよくご確認の上、組立てを開始してください。

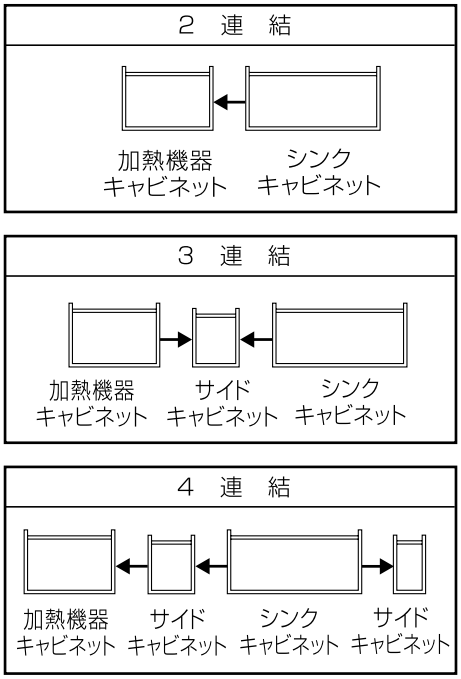
右記部品で構成されています。
下記図中の●白抜き数字で照合してください。

※この他、ウォール・トール・収納ユニット等の部材があります。

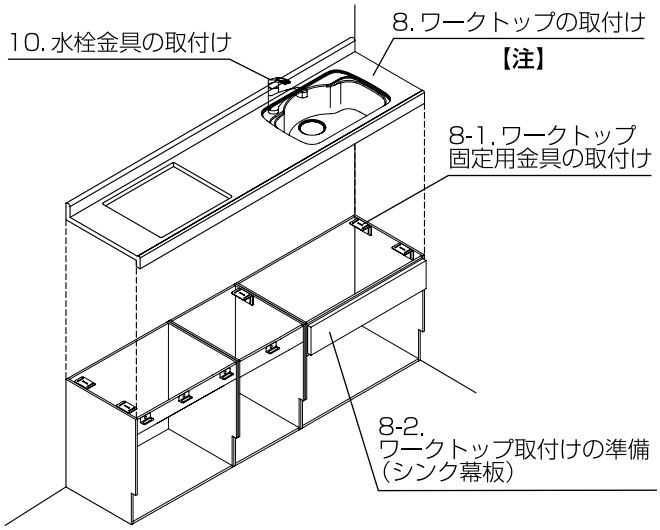
❶❷ ――― ワークトップ、シンク
❸ ――――― 加熱機器
❹ ――― 加熱機器キャビネット
❺ ――― シンクキャビネット



【注】ラクリーンシンクタイプについては、排水部品をラクリーンシンクに先に取付けた後で、ワークトップをキャビネットに取付けます。



■フロアキャビネットの仮置き



【注】ラクリーンシンクタイプについては、排水部品をラクリーンシンクに先に取付けた後で、ワークトップをキャビネットに取付けます。

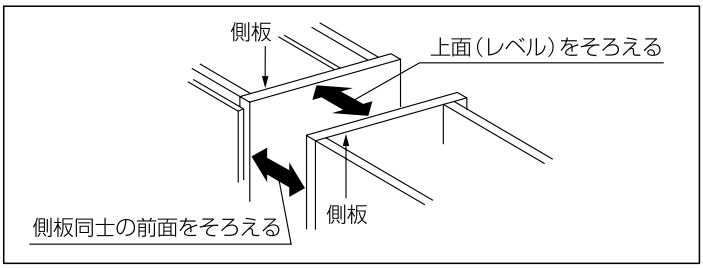
6-1 キャビネットの設置

1. 扉・引出しの取外し

キャビネットの仮置き・設置の前に扉・引出しを取外します。扉・引出しの外し方は、「14.調整方法」(P28)を参照してください。

2. キャビネットの設置

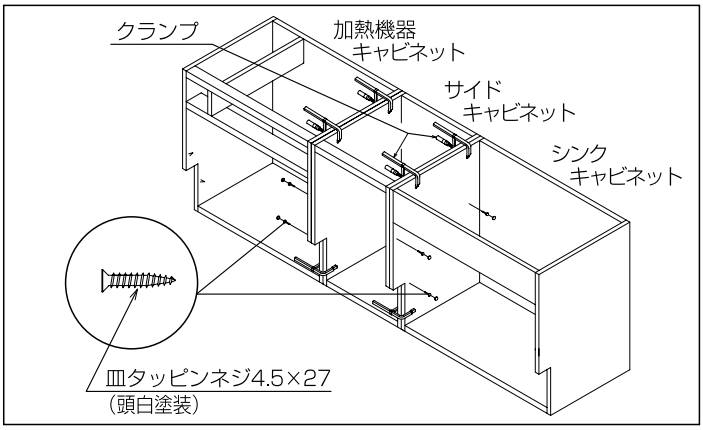
①フロアキャビネットを仮置きします。
②各キャビネット同士の側板の上面と前面の面合せをしてください。



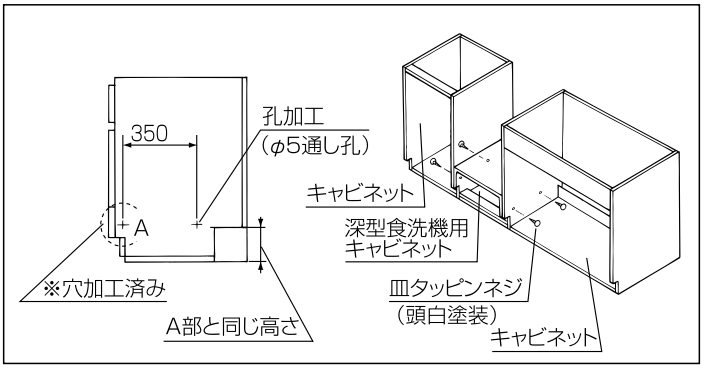
3. キャビネットの連結

●キャビネットの連結

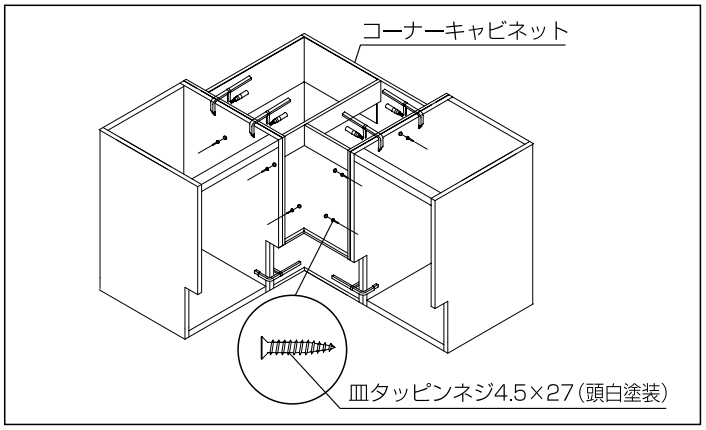
シンク用キャビネットの内部から付属の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で確実に各キャビネットを連結します。



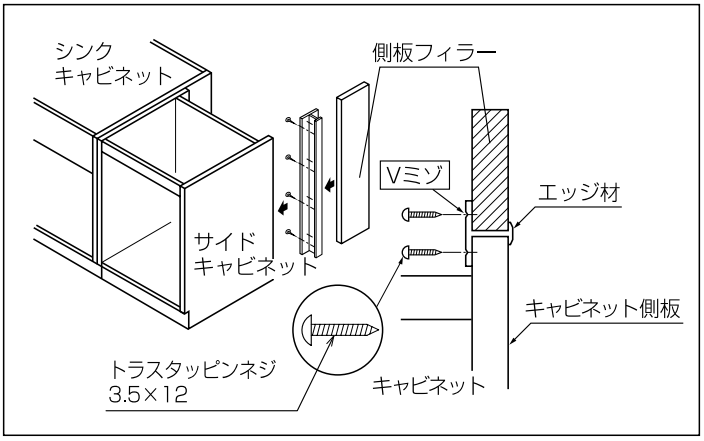
●深型食洗用キャビネットの場合
深型食洗機用キャビネットに隣接するキャビネットの側板に下図を参考に下穴をあけてください。
キャビネットの側板の前面を合わせて隣接するキャビネットより付属の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で連結してください。



●L型コーナーキャビネットの場合
L型タイプの場合はコーナーキャビネットを先に据えてからキャビネット内部から付属の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で連結します。

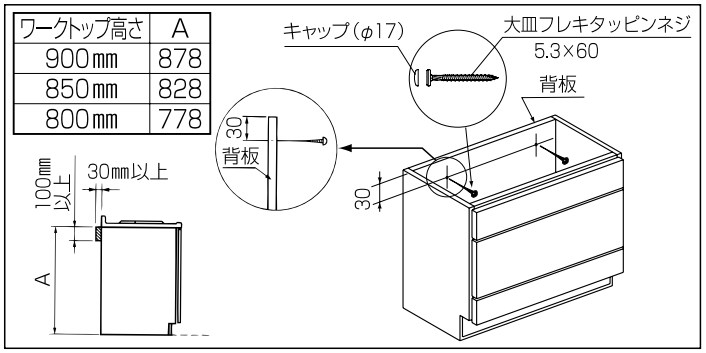


4. 奥行の短いキャビネットをオープン側に設置した場合
サイドキャビネット・加熱機器キャビネットの側板には奥行が短いものがあります。レイアウトがオープンになる場合は、図のように側板フィラーをエッジ材と付属のトラスタッピンネジ3.5×12で取付けてください。

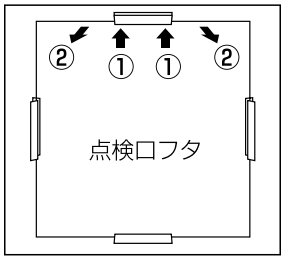


5. キャビネットの壁面固定
（引出しキャビネット、開き扉キャビネット）
①キャビネット背板の取付ネジ位置にあらかじめ下穴（φ4.5～φ5）をあけてください。
②キャビネットに同梱の大皿フレキタッピンネジ5.3×60（φ17キャップ付）で壁面に固定してください。
③シンクキャビネット、加熱機器キャビネットを壁面に固定してください。

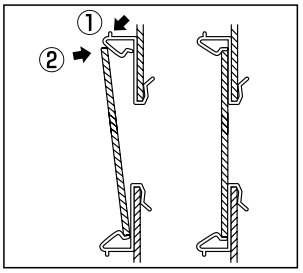
ワークトップ高さ	A
900㎜	878
850㎜	828
800㎜	778



6. 点検口の外し方・取付け方
（点検口フタの外し方）
①クリップを上に押し上げながら
②フタを手前にひいてください。

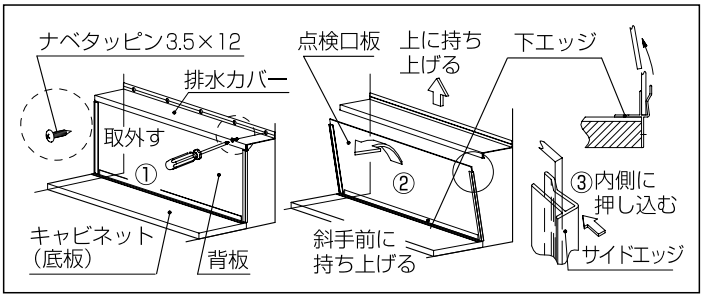


（点検口フタの取付け方）
①クリップに指をかけて
②フタを押し込んでください。

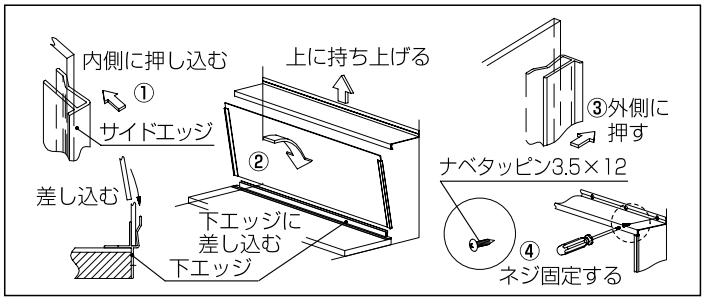


ひな段タイプの場合

●取外し方
①排水カバーを固定しているネジをプラスドライバーで取外してください。
②排水カバーを上に持上げ、点検口板を斜め手前に持上げてください。間口が大きい場合は、端部から外すと外しやすくなります。
③点検口板を引出す際は、キャビネット内側に傷をつけないように、サイドエッジを内側に押し込んで引出してください。



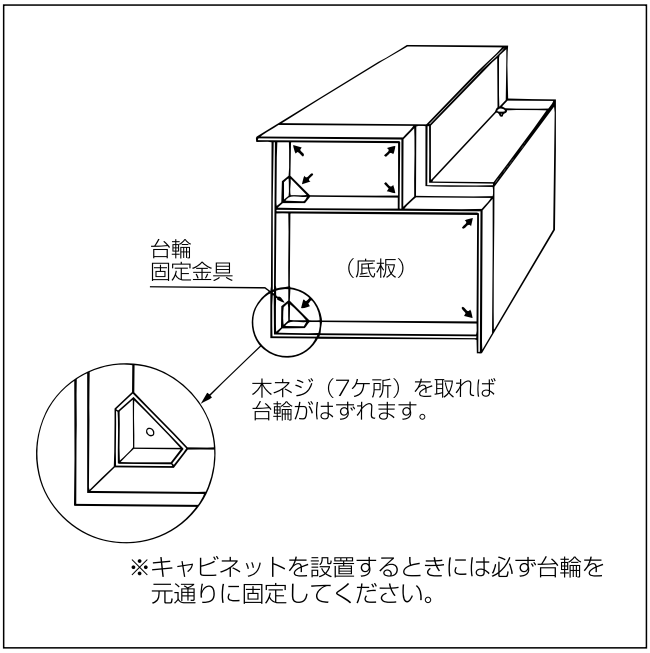
●取付け方
①点検口板のサイドエッジを内側に押し込んでください。
②排水カバーを上に持上げ、点検口板を下エッジに確実に差し込んでください。間口が大きい場合は、端部から差し込んでください。
③排水カバーを被せたら、側板との隙間をサイドエッジでふさいでください。
④排水カバーをプラスドライバーでネジ固定してください。



7 各種キャビネットの補足事項

7-1 L型コーナーキャビネット

●L型コーナーキャビネットの搬入について
キャビネットが現場の入り口等にあたって搬入できない場合は、台輪部分を取外し、いったん分離してから搬入してください。キャビネット底部を止めている台輪固定金具の木ネジを外せば台輪が分離できます。



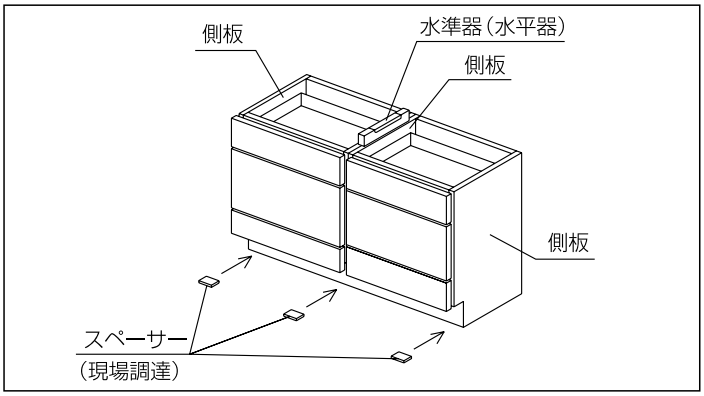
※キャビネットを設置するときには必ず台輪を元通りに固定してください。

7-2 スライドストッカーキャビネット設置時の注意事項

スライドストッカーキャビネットの場合、キャビネット設置後に引出しがきちんと閉りきることを確認してください。
閉まりきらない場合は下記の確認をおこない、引出しが閉りきるように調整してください。

●キャビネットの水平レベルを水準器（水平器）等で確認してください。キャビネットが前倒れしていると、引出しを閉める際の抵抗により、引出しが閉りきらないことがあります。前倒れしている場合は、側板の下にスペーサー（現場調達）を入れ、確実に水平を出してください。

●鏡板の隙間を確認してください。
鏡板の上下方向の隙間が極端にせまいと引出しが閉まりきらないことがあります。
鏡板の調整は「14.調整方法」を参照してください。

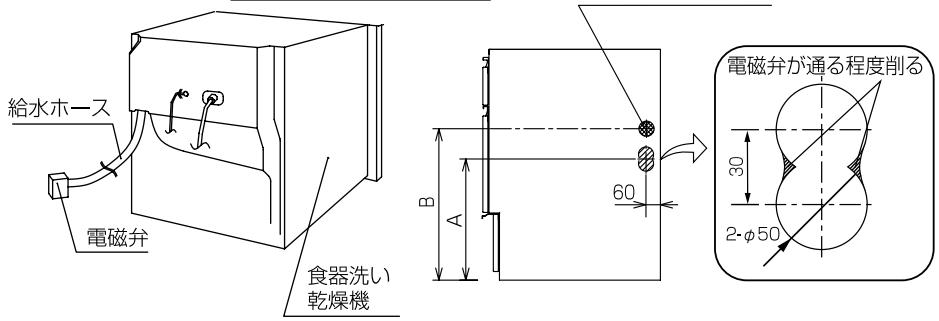


7-3 食器洗い乾燥機配管用下穴加工とコンセントの取付け高さ

シンクキャビネットの側板に食器洗い乾燥機からの配管を通す穴をあけます。プルオープン食洗キャビにも同様に穴をあけます。シンクキャビネット側板の図の高さにコンセントを設置します。

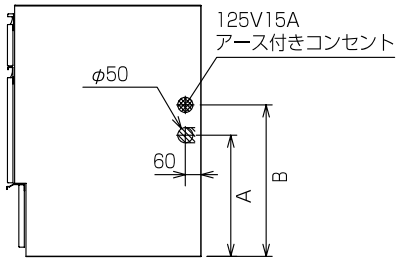
電磁弁がある場合

ワークトップ高さ	A	B
800	350	450
850	400	500
900	450	550



電磁弁がない場合

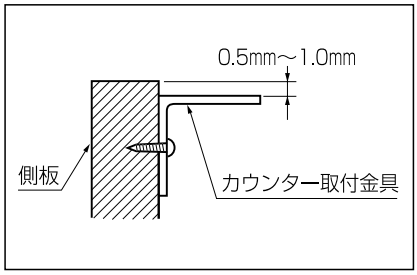
ワークトップ高さ	A	B
800	350	450
850	400	500
900	450	550



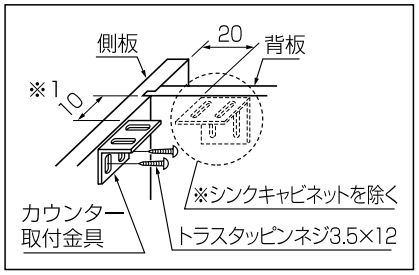
8 ワークトップの取付け

8-1 ワークトップ固定用金具の取付け

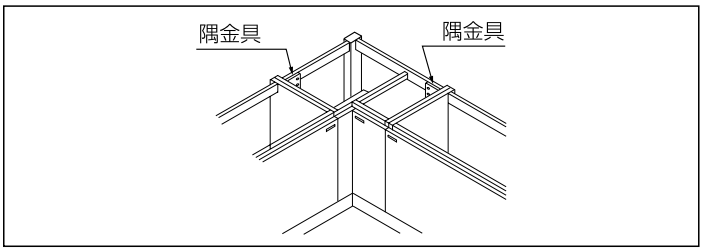
ワークトップに同梱のカウンター取付金具を図の位置に固定してください。



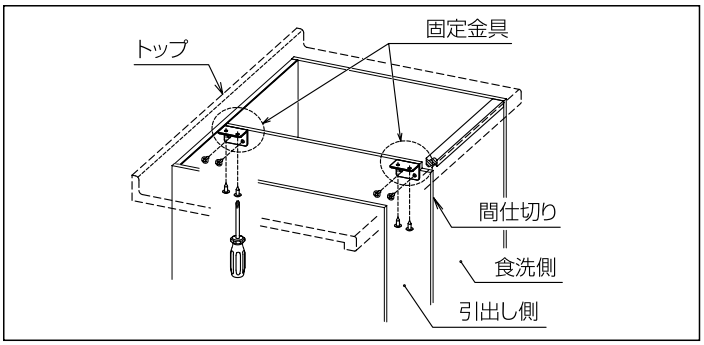
※1：ワークトップの裏打ち材がない場合は、金具の位置をずらして調整してください。
また、フロント水栓カバーを設置する場合は、この寸法を50㎜としてください。



コーナーキャビネットはキャビネットに取付けてある隅金具からワークトップに固定します。



間口750以上の食洗キャビネットは下図のようにキャビネットに同梱の固定金具を間仕切りの引出し側前後2箇所にトラスタッピンネジ3.5×12で取付け、トップと固定してください。



⚠注意

間口750以上の食洗キャビネットは、キャビネットに同梱の固定金具とネジを使って間仕切りの引出し側前後2箇所を必ずトップと固定する。
固定しないと、収納物や機器の荷重で仕切板がたわみ、鏡板どうしが干渉するおそれがあります。

⚠注意

ステンレス製カウンタートップやシンクを取扱うときには、必ず保護手袋をする。
切断面にさわるとけがをするおそれがあります。

8-2 ワークトップ取付けの準備

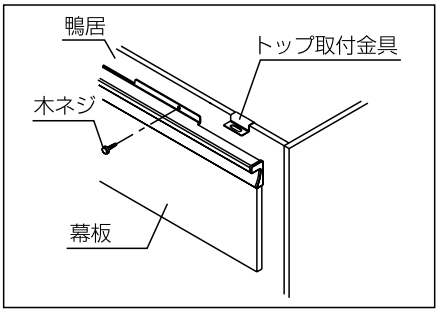
●シンクキャビネットが引出しタイプの場合

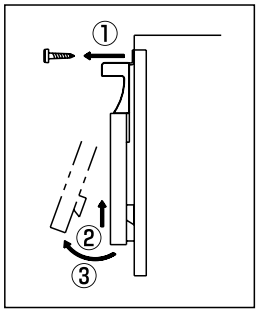
●シンクキャビネットにはあらかじめ幕板が鴨居に固定されています。
トップを据付ける前に必ず取外してください。
①幕板を固定している木ネジを外します。
②③幕板を持ち上げながら下側を手前に引き、取外します。
※トップの取付け終了後、逆の手順で幕板を取付けてください。

〈ご注意〉

幕板を取付ける時は、プラスドライバー（手回し）を使用してください。
幕板やトップ面にキズをつけないよう注意してください。

手じめ





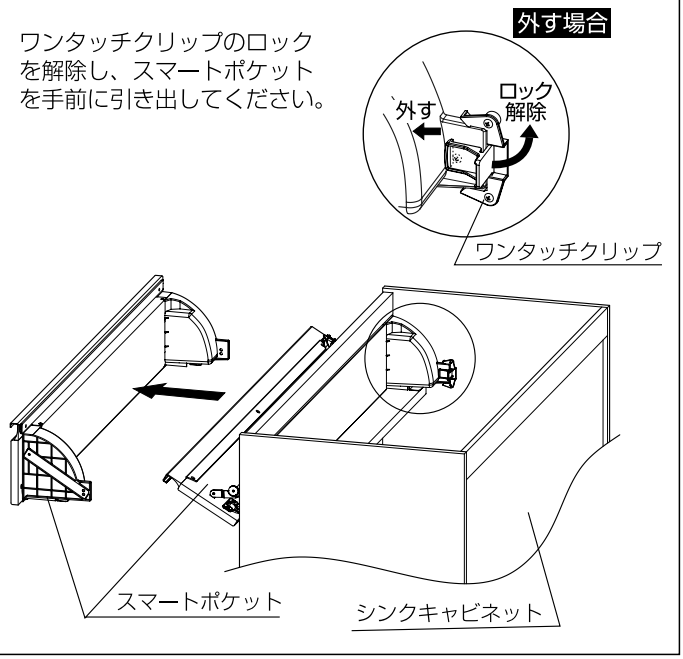
●シンクキャビネットがスマートポケット付タイプの場合

スマートポケットは仮固定（ワンタッチクリップのロックのみ）で出荷しています。ワークトップを据付け前に必ずスマートポケットを取外します。

①引出しの取外し
スマートポケットの下の引出しを外してから、スマートポケットを外します。
引出しの外し方は「14.調整方法」を参照してください。

②スマートポケットユニットの取外し
スマートポケットとシンクキャビネットを仮固定しているワンタッチクリップ（左右2ケ所）のロックを解除します。
スマートポケットのユニットごと水平に取り外してください。

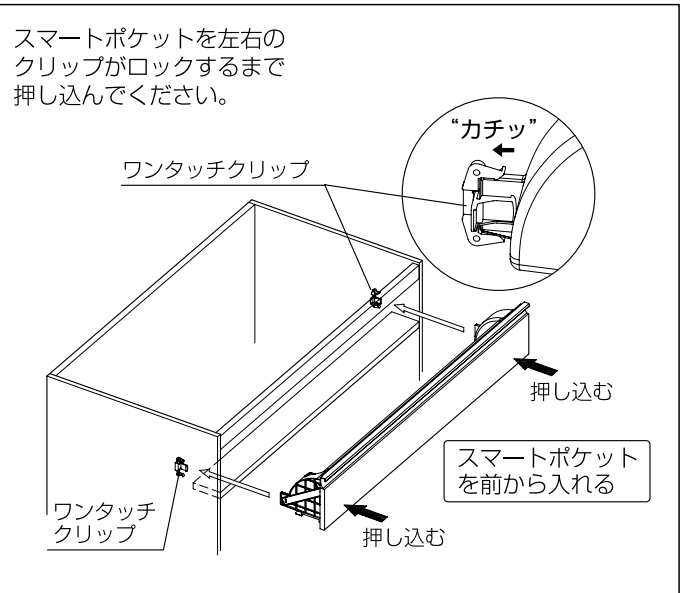
ワンタッチクリップのロックを解除し、スマートポケットを手前に引き出してください。



③トップの取付け
ワークトップ前面と後面を固定してください。
トップとキャビネットの固定は「8.ワークトップの取付け」を参照してください。

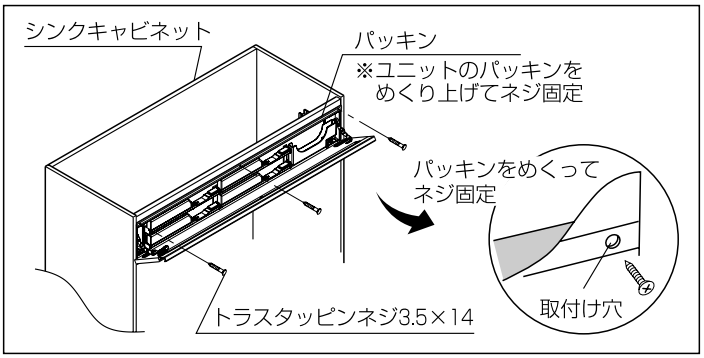
④スマートポケットの設置
スマートポケットを水平に押し込み元にもどします。
スマートポケットの左右2ケ所のクリップがロックするまで押し込んでください。(ロックが確実に掛ったことを確認してくだ。)

スマートポケットを左右のクリップがロックするまで押し込んでください。



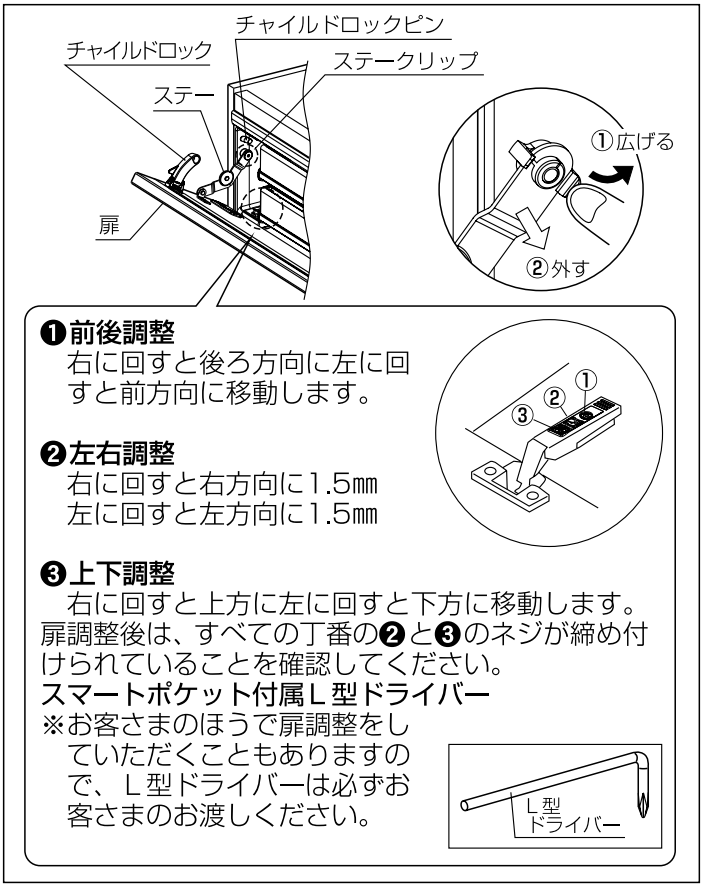
⑤スマートポケットの固定

シンクキャビネット同梱のトラスタッピンネジ3.5×14にてスマートポケットユニットを固定します。
固定用の穴は３ケ所です。ユニットのパッキンを上にめくり上げてネジ固定してください。



⑥扉の調整

扉は左右や前後のズレがないように取付けられています。微調整が必要なときは丁番の❶・❷・❸のネジでおこなえます。スマートポケットに付属のＬ型ドライバーまたは市販のラチェットドライバーにて調整してください。ドライバーが回しづらい場合は、ステーを外すことができます。下図のようにステーを固定しているステークリップを指で広げながら(①)、ステーを横から押すと外せます(②)。



❶前後調整

右に回すと後ろ方向に左に回すと前方向に移動します。

❷左右調整

右に回すと右方向に1.5㎜
左に回すと左方向に1.5㎜

❸上下調整

右に回すと上方に左に回すと下方に移動します。

扉調整後は、すべての丁番の❷と❸のネジが締め付けられていることを確認してください。

スマートポケット付属Ｌ型ドライバー

※お客さまのほうで扉調整をしていただくこともありますので、Ｌ型ドライバーは必ずお客さまのお渡しください。

⑦チャイルドロックの動作確認

チャイルドロック本体を起こし、ロックがかかるか確認してください。ロックがかからない場合はチャイルドロックを固定しているビスをゆるめ、チャイルドロックを左に寄せビスを締め付けます。再度チャイルドロックの効きを確認してください。確認後は、ロックを解除した状態でお引渡しをしてください。

⚠注意	**取付・設置完了後、扉の傾き、ガタつき、丁番のゆるみがないことを必ず確認してください。また、スマートポケットユニットのネジ固定の忘れがないか確認してください。** 使用中に扉、またはスマートポケットユニットが落下して、けがをするおそれがあります。

8-3 シンク押え金具の取外し

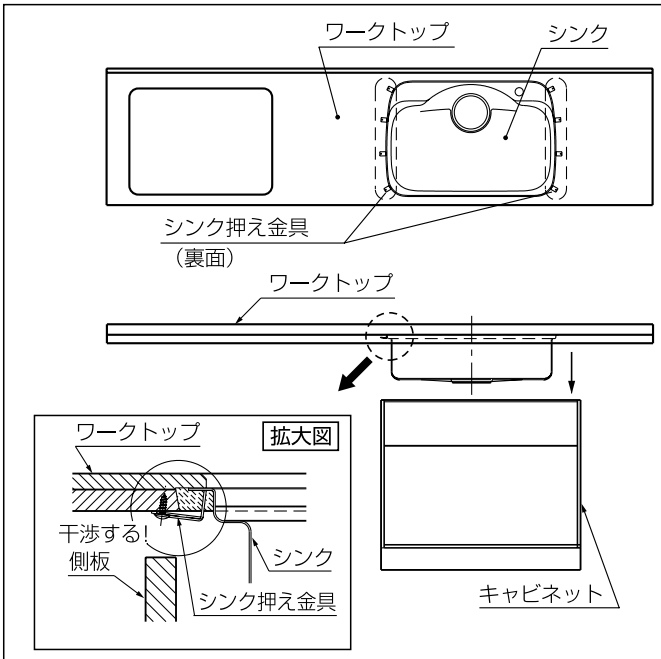
ワークトップが人造大理石トップの場合

ワークトップをキャビネットに設置する際、キャビネットの側板にシンク押え金具が乗り上げないことを確認してください。
(乗り上げてしまうと浮いてしまい正常な設置ができません)

⚠注意	**キャビネット内よりシンク押え金具が乗り上げていないことを確認する。** ❗

シンク押え金具が側板に乗り上げる場合

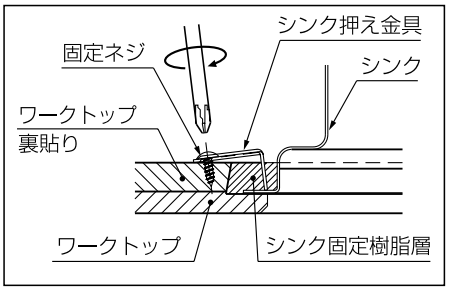
シンク押え金具を取外します。



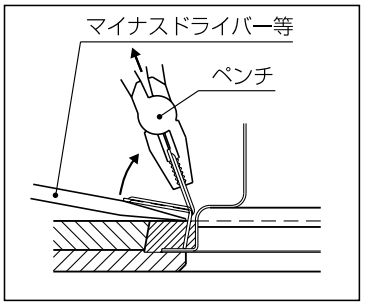
※シンク位置を移動したレイアウト及びシンクキャビネット間口750・600の場合などは必ず確認願います。

(取外し方)

①シンク押え金具を止めている固定ネジを外します。



②マイナスドライバー等を隙間に差込み金具を引き起こし、ペンチで引き抜いてください。

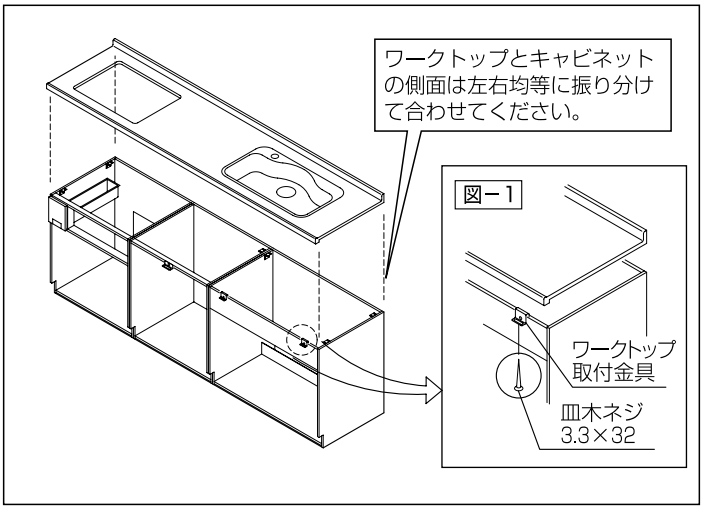


※金具は生産工程上のシンク固定樹脂層の硬化養生作業時に使用する為のもので有り、お客様の使用勝手には影響ありません。

⚠注意	**金具は丁寧に取外し、シンク固定樹脂層をなるべく破損しないようにしてください。** ❗

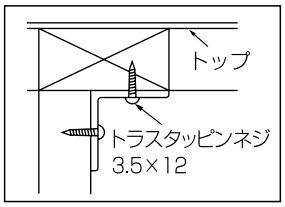
8-4 ワークトップ前面の取付け

●ステンレストップ、人造大理石トップの場合
ワークトップとキャビネットの固定は、キャビネット前面下部より付属のネジで固定します。（図－1）
ワークトップとキャビネットの側面は左右均等に振り分けて合わせて設置してください。



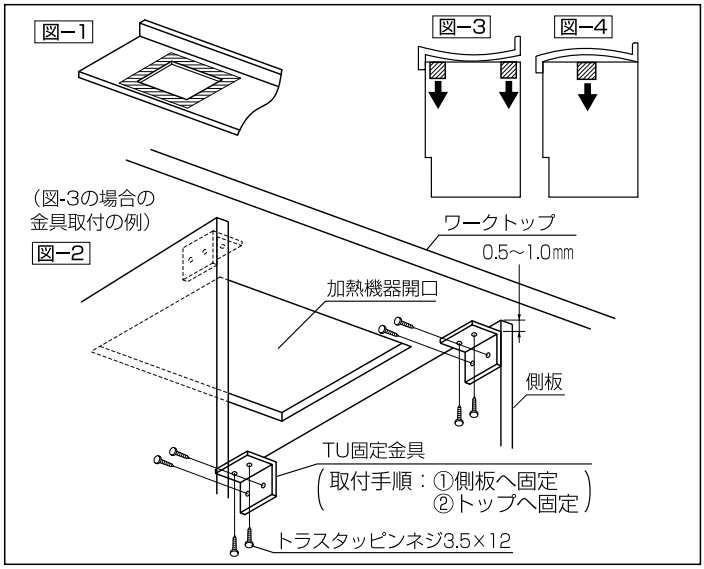
8-5 ワークトップ後面の取付け

右図を参照し、8-1で取付けたワークトップ取付金具で固定してください。



8-6 加熱機器開口まわりの場合

●水漏れを防止するためトップをのせた後、加熱機器開口まわり（図－1斜線部）の反りが1㎜以内であるかご確認ください。
●1㎜を越える反りがある場合
トップ同梱のTU固定金具を図－2のように取付けて反りを矯正してください。TU固定金具を取付ける際、トップ裏側に裏打ち材がない場合は木片等（厚さ:ステンレストップの場合20㎜、人大トップの場合15㎜）を貼付けてください。
●反り凸凹の調整
- 凹方向の反りの場合
  TU固定金具で両サイドを引張り調整します。（図－3）
- 凸方向の反りの場合
  TU固定金具で中央部を引張り調整します。（図－4）

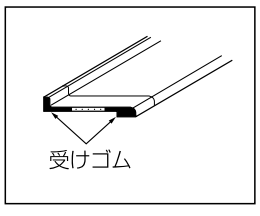


9 L型ワークトップの連結と研磨手順

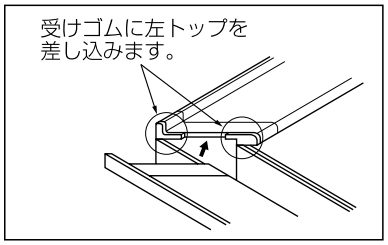
ステンレストップと人造大理石トップでは、連結手順・方法が異なりますので注意してください。

9-1 ステンレストップの連結

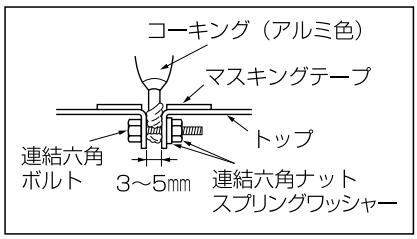
1. 連結前の準備
①前・後の受けゴムに付属のコーキング（アルミ色）を塗布してトップの前框とバックガードに差込み、コーナーの位置合わせをしてください。



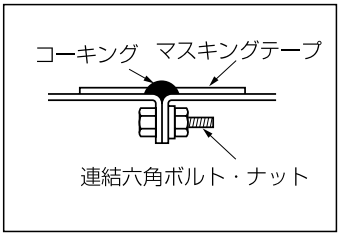
②右トップ前・後にある受けゴム部へ左トップの前框とバックガードを差込むようにして右トップに引寄せます。



2. 連結／接着
①キャビネット内部よりトップ連結穴に付属の連結ボルトを通します。隙間が3～5㎜程度になるまで仮締付けして、切れ目なく均等にコーキングを充填してください。



②両方のトップのレベル調整をしながら、連結六角ボルト・ナットを締込んでください。このときコーキングが盛上がりますがそのままにしておきます。



③ヘラでコーキングを除去した後マスキングテープをはがしてください。

硬化期間

コーキング（ステンレストップ）	24～48時間

⚠注意 取付け・仕上げ工事に使われる、溶剤、接着剤、洗剤、その他薬品類については、容器などに記載の注意表示に従って正しくおこなう。

9-2 人造大理石トップの連結と研磨手順

◆作業を始める前に、必ずお読みになってください。

▼ワークトップを研磨する際は、必ずマスクを着用して作業をおこなってください。
▼接合面のレベル調整が不十分である（段差が大きい）と仕上げ時間を要しますので、注意してください。また、接合面に研磨による凹みが発生します。
▼冬場の作業で硬化時間を短縮させる時は、ワークトップ自体を暖めるよりも、接着剤（主剤）自体を暖める（30～40℃）方が効果的です。
▼ワークトップのバックガード・前見付けの入隅部は研磨し難いため、極力研磨しないよう配慮をしてください。
▼ワークトップの研磨の仕上げは、入念に確認してください。
▼ランダムアクションサンダーを使用する場合はハイピッチペーパーをご使用ください。
▼接着剤セットに同梱されている研磨手順は参照しないでください。
▼バリアコート人造大理石トップの接合と研磨の後は別紙説明書によりバリアコート処理をおこなってください。

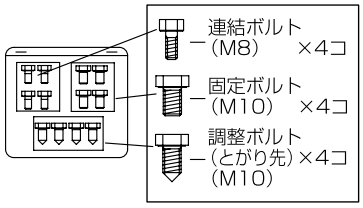
■部材の確認

下図のセット部材が同梱されているか、数量および接着剤カラーが合っているかを確認してください。
L型の連結ボルトセットは、ワークトップに同梱されています。

接着剤セット同梱部品

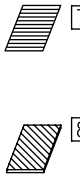
1 接着剤（主剤） 2 硬化剤 3 プライマー（エタノール） 4 かくはん棒 5 ヘラ

ワークトップ同梱部材



6 L型の連結ボルトセット

L型連結部研磨同梱部材

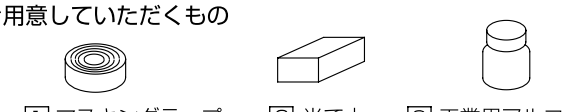


7 ブルーバックペーパー RACS－MS（#120、#240、#400、#600、#800、#1000）

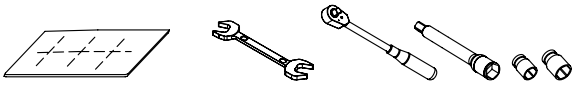
8 スコッチブライト（7448：グレー色）

円滑に作業をおこなうために、下図のものをご用意してください。

ご用意していただくもの



1 マスキングテープ 2 当て木 3 工業用アルコール

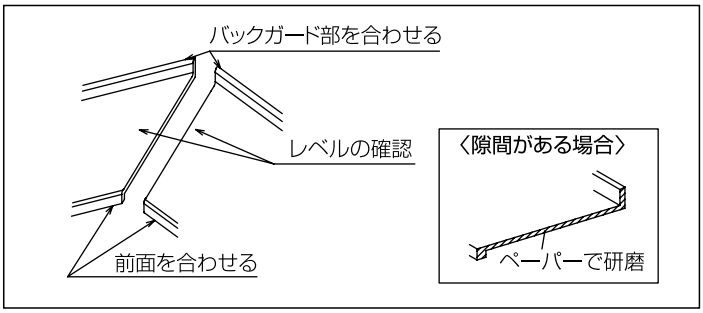


4 ウエス 5 スパナまたはラチェット、エクステンション、ソケット（サイズ:12、14）

6 コーキングヘラ 7 マスク

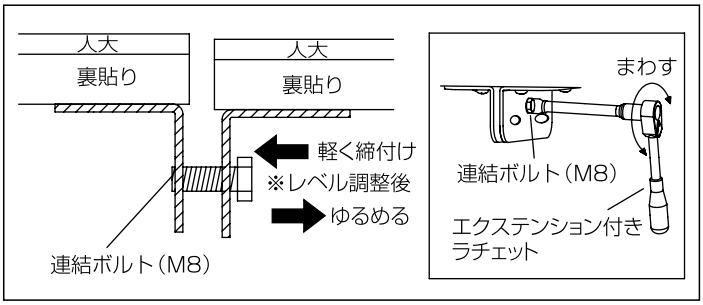
1. 接合面の確認および処理

①キャビネット上にワークトップ（以下、トップ）を仮置きしてから、正規の取付位置で接合面の試し合わせをしてください。
②接合面に隙間がある場合は、接合面を＃120のブルーバックペーパーで研磨してください。
③研磨後は、接合面および接合面周辺をアルコールできれいに取り除いてください。



2. トップの平面部の段差確認

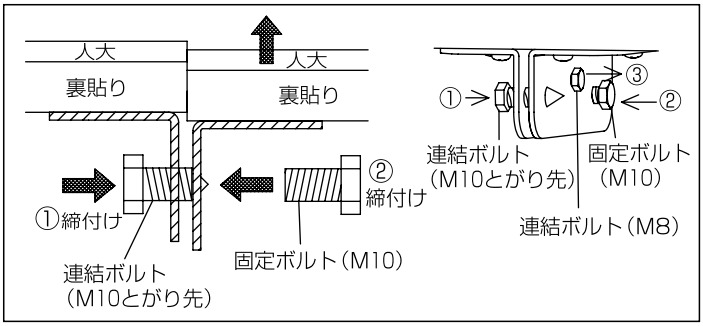
①トップの片側をキャビネットに仮留めし、前面を合わせて正規の位置に設置してください。
②同梱の連結ボルト（M8）を金具中央のタップ穴にねじ込み、トップ接合面が当たるまで軽く締めてください。
③トップ平面部の段差の有無を確認してください。



3. 接合面のレベル調整

①トップのレベルが合っていない場合は、同梱の調整ボルト（M10とがり先）を上にずらしたいトップ側に向けて、ねじ込みます。調整手順は手前→奥→中央手前→中央奥の順にレベル調整をしてください。
②レベルが合った後に反対側から固定ボルト（M10）をねじ込み、金具に突き当たるまで締めてください。
③連結ボルト（M8）をゆるめ、約3ミリの隙間（接着剤塗布用）をあけてください。
④トップ接合面付近をプライマーで汚れをきれいに落としてください。

⚠注意 接合面のレベル調整が不十分（段差が大きい）であると仕上げ時間を要しますので、接合面は極力段差をなくす調整をしてください。

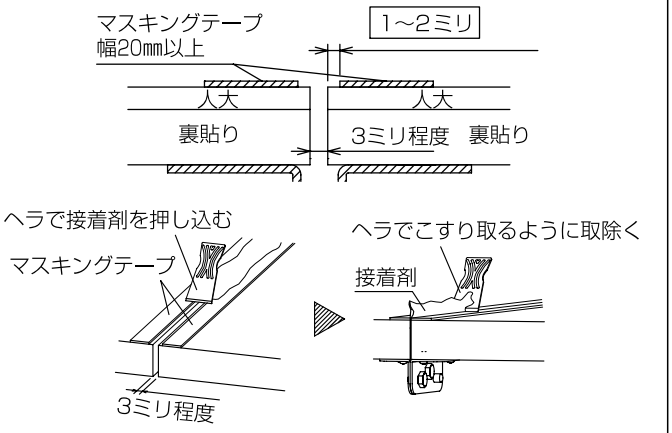


	ソケットサイズ
連結ボルトM8	12
調整ボルトM10	14
固定ボルトM10	

4. 接合面の接続（接着剤塗布）

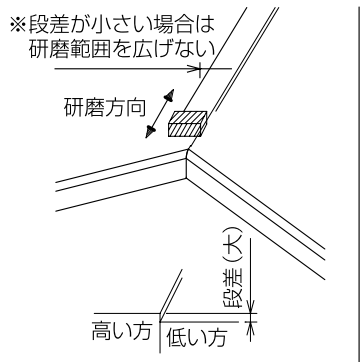
①接合面から片側１～２ミリ離して幅広のマスキングテープを貼ってください。
②接着剤（主剤）をパレットに取り出し、硬化剤の容器側面に記載されている量（季節により変化）を滴下し、よくかくはんしてください。
③ヘラで、接合部分に隙間なく接着剤を押し込んでください。
④連結ボルト（M8）を取付け、レベルを確認した上で、余分な接着剤をヘラで取り除いてください。
⑤前框とバックガードはコーキングヘラで取り除いてください。
⑥接着剤が硬化する前にマスキングテープを取り除いてください。

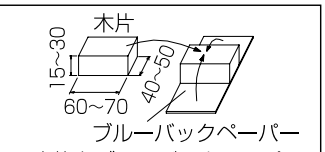
マスキング貼り方



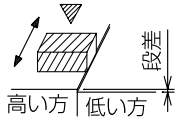
5. 硬化した接着剤の除去

①下記図中の硬化時間表を目安として、接着剤をツメの先で押してください。ツメ跡が残らなければ、硬化しています。
②接着剤の除去、接合面の段差を平滑にするために、当て木に＃120のブルーバックペーパーを包んで研磨してください。
③段差の高い方を研磨し、接合面が平滑になるようにしてください。
※但し、段差が大きい場合は局所的に研磨しますと、不陸（凸凹）が出るおそれがあります。
④手で触って接合面に不陸（凸凹）がないかを確認してください。





※木片をブルーバックペーパーで包んで使用ください。

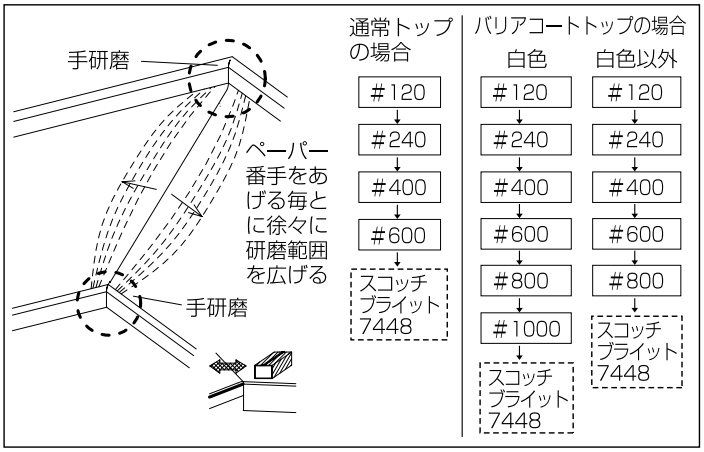


※段差が高い方を研磨する

気温	硬化時間（目安）
10℃	5～7時間
20℃	3～5時間
30℃	2～3時間

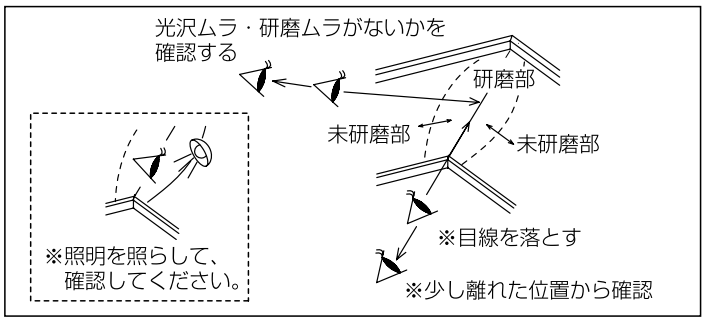
6. 研磨手順

①接合面が平滑になったら、同梱のブルーバックペーパーで研磨してください。通常トップまたは、バリアコートトップの白色または白以外でブルーバックペーパーの番手種類が異なります。使用する番手と順番をよく確認いただき研磨をしてください。
②研磨範囲は、必ず前のペーパーよりも少し広い範囲で研磨し、前のペーパー傷が残らないように注意してください。
※同じ箇所を集中的に研磨したり、前のペーパー傷をきちんと落としていないと研磨・光沢ムラになります。
③バックガードおよび前框入隅付近は必ず手研磨（木片）してください。
④最後に研磨部全体をスコッチブライト7448で仕上げてください。



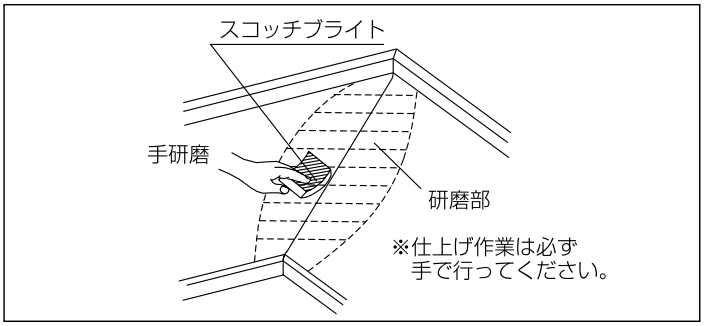
7. 研磨仕上げの確認

①接合部の研磨終了後、水またはアルコールを含ませたきれいな布でトップ全体をふいてください。
②仕上りの確認は、目線を落としたり、少し離れた所から見たり、照明を使うなど様々な角度から見て確認してください。
③研磨部と未研磨部の境目が目立つ場合は「８」の手順で境目のぼかし作業をおこなってください。
※特に、キッチン前面に出窓など光が入るレイアウト時には注意してください。



8. 研磨・未研磨部境目の仕上げ方

★仕上げ方のポイント
研磨部と未研磨部を仕上げる場合は、同梱のスコッチブライト7448で研磨部を全体的に手研磨でざらざら感がなくなるまで手研磨で仕上げてください。仕上げ作業が終了したら、「7.」と同様に清掃および仕上り確認を行ってください。



9. バリアコート人造大理石の表面処理（仕上げ）のしかた

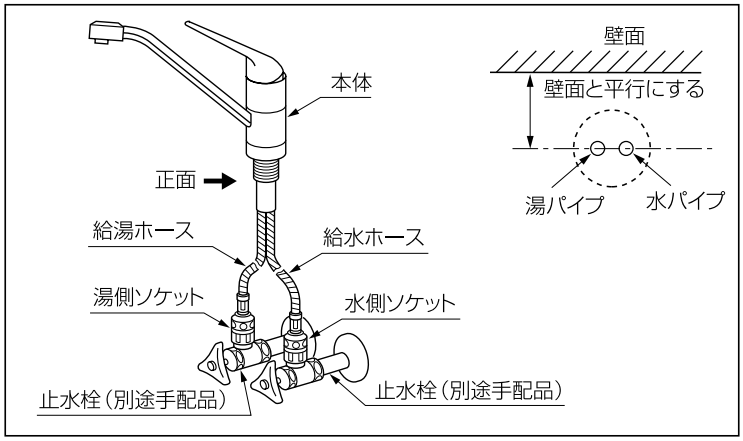
人造大理石トップの連結と研磨作業後、バリアコートタイプはバリアコート処理作業をおこないます。別紙説明書を参照し、正しく作業してください。

10 水栓金具・浄水機能付水栓の取付け

●水栓には1次配管と接続するためのソケットが同梱されていますので、紛失しないようにご注意ください。

⚠注意

水栓金具・浄水機能付水栓の取付けは必ず取付・設置説明書および製品本体の表示事項を守り正しく設置する。 管工事 キッチン取付・設置



11 排水部品の取付け

⚠注意

必ず設置方法を守って取付けてください。
取付けを誤ると湯水が漏れ、損害が出るおそれがあります。

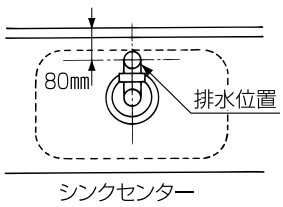
各部材のフクロナットの締付けは、工具を使用しないでください。
工具を使用すると、フクロナットが割れ、漏水するおそれがあります。

シンク締込部および、各パッキン密着部はゴミ・ホコリ等を確実に取り除いてください。
ゴミ・ホコリ等が残っているとパッキンが密着せず、漏水するおそれがあります。

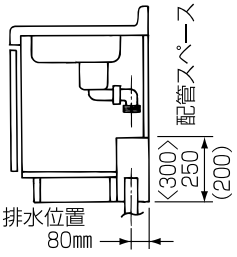
11-1 排水位置の確認

シンクの種類によって、排水位置が異なります。図を参照してください。

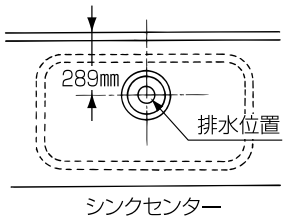
■後ろ振り排水タイプ



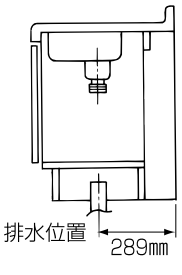
- センターポケットシンク
- 人造大理石シンク
- ラウンドシンク
- ラクリーンシンク



■真下排水タイプ



- フランジ付シンク



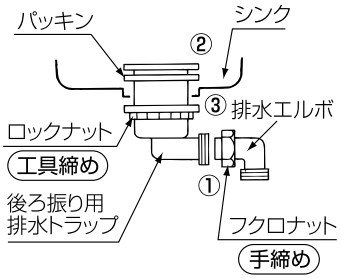
( )寸法はワークトップ高さH800のときを示す。
〈 〉寸法はワークトップ高さH900のときを示す。

11-2 ゴミ収納器付排水トラップの取付け

シンクの種類によって、排水トラップの形状が異なります。

■後ろ振り排水タイプ

- センターポケットシンク
- 人造大理石シンク
- ラウンドシンク

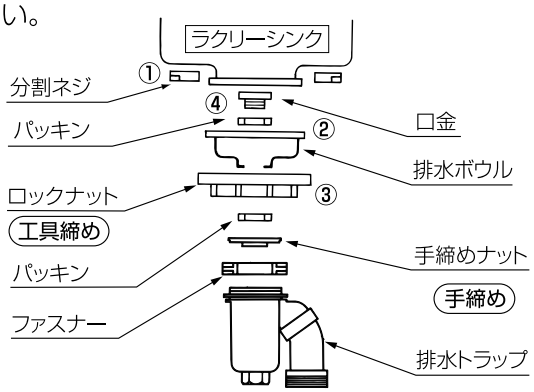


①排水エルボと排水トラップを接続します。
フクロナットは工具を使用せず、手できつく締め付けます。
②排水トラップにパッキンが確実に取付いているのを確認し、排水トラップをシンクの上から設置します。
③シンクの下からロックナットを専用工具で固く締め付け、排水トラップをシンクに固定します。

■後ろ振り排水タイプ

- ラクリーンシンク

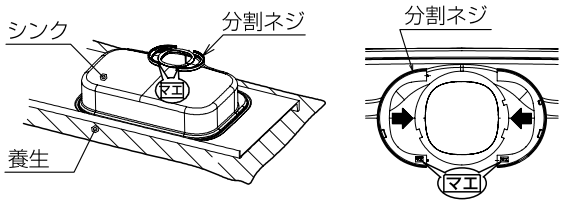
【注】ラクリーンシンクの排水部品の取付けは、トップをフロアキャビネットに乗せる前に取付けてください。



①分割ネジの取付け

トップを裏返しにして、シンクに分割ネジをセットします。

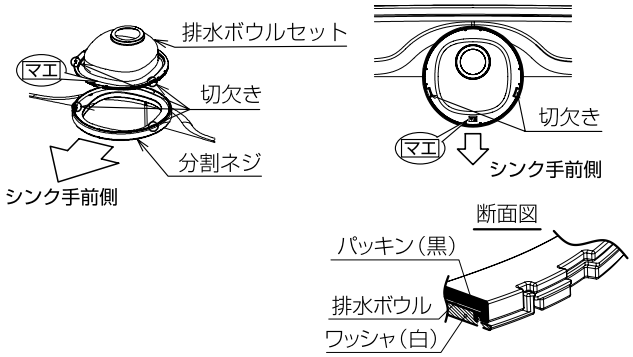
※分割ネジには前後方向があります。分割ネジの マエ をシンクの前方に合せセットします。



②排水ボウルの取付け

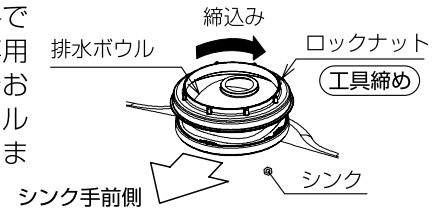
排水ボウルセットの切欠き部を分割ネジと合わせてセットします。

> **●パッキン密着部は、ゴミ・ホコリ等を確実に取り除く。**
> **●パッキンが確実に排水ボウルにセットされている事を確認する。**



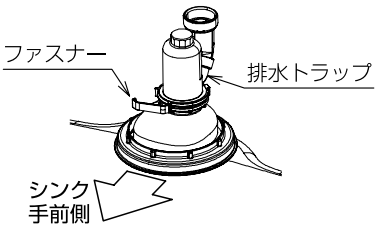
③ロックナット締込み

ロックナットを手で固く締めた後、専用工具で増し締めをおこない、排水ボウルをシンクに固定します。



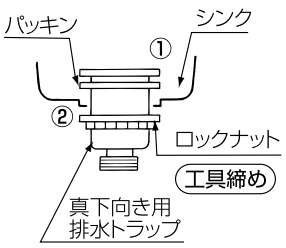
④排水トラップ取付け

口金にパッキンを確実に取付け、排水ボウルの排水口に設置します。排水ボウルの下側からパッキンを取付け手締めナットを手できつく締め付けます。手締めナットにトラップをさしこみファスナーでロックします。



■真下排水タイプ

• フランジ付シンク



①排水トラップにパッキンが確実に取付いているのを確認し、排水トラップをシンクの上から設置します。

②シンクの下からロックナットを専用工具で固く締め付け排水トラップをシンクに固定します。

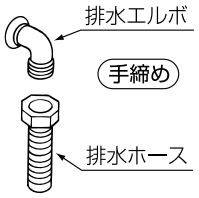
11-3 排水ホースの取付けと水漏れ確認

排水ホースセットは、別途設定品（別梱包）になっています。

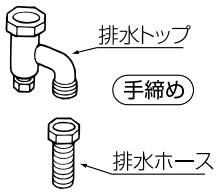
●後ろ振り排水タイプのとき

排水エルボ、または排水トラップに排水ホースを手できつく締めつけます。

• センターポケットシンク
• 人造大理石シンク
• ラウンドシンク

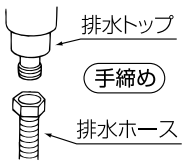


• ラクリーンシンク



●真下排水タイプのとき

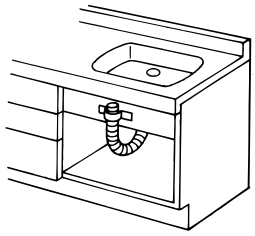
排水トラップに排水ホースを手できつく締め付けます。



●水漏れ確認

図のように排水ホースを水面より上になるようにテープなどで仮止めし、シンク内に水をため、30分ほど放置します。

排水セットの接合部から水漏れがないことを確認してください。



11-4 排水接続 管工事

> **⚠警告** 管工事は関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」がおこなう。

> **⚠注意** **排水管の接続部は確実に締付ける。**
> 接続が不完全な場合は、水漏れ、腐食の原因となります。

●排水管の接続について

⚠ 注 意

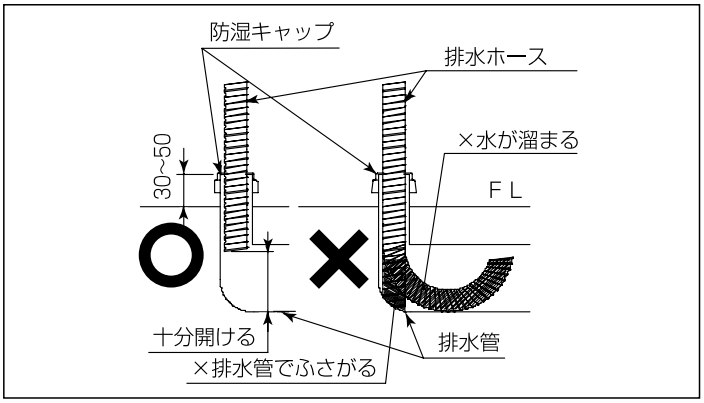
排水管は床面より30～50㎜の間で立ち上げてください。
立上げが長いとビルトイン機器の排水が逆流します。

排水ホースをダブルトラップにならないようにして排水管に差込んでください。また排水ホースが長い場合は排水管の立ち上げ寸法に合わせて先端をカットしてください。
排水ホースが長いとホースの内部に排水が残り、水の流れが悪くなります。

防湿キャップを排水管の穴がしっかりふさがるように押し込んでください。
防湿キャップの押し込みが不完全だと、漏水や悪臭の原因になります。

排水ホースは曲がり・たるみの無いように差込んでください。
排水ホースに曲がり・たるみがあると、排水ホースがあばれ、排水ホースが破れることがあります。

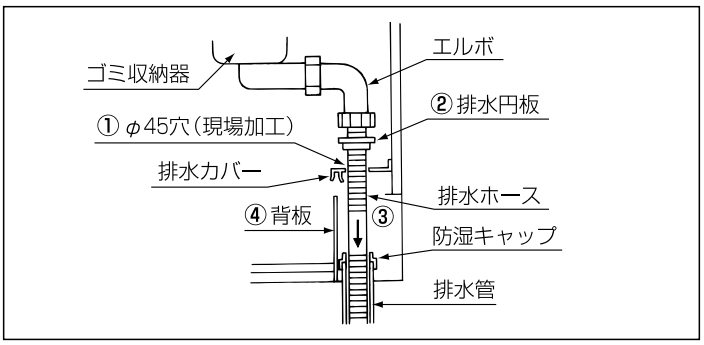
排水ホースの先端が配管よりふさがれないように差込んでください。
排水ホースの先端がふさがれてしまうと、ゴミが詰まりやすくなり、水の流れが悪くなります。



※防湿キャップは、VP−40，VP−50，VU−40，VU−50に対応します。

●後ろ振り排水タイプの接続の仕方

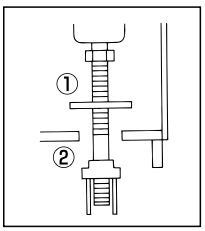
①排水管位置に合わせて排水カバーの穴加工（φ45）をします。
②排水円板を排水ホースに取りつけた後、ホースを排水カバー穴に通します。
③排水ホースを排水管に差し込み、防湿キャップを取付けます。 **管工事**
④排水カバー、背板の取付けにつては、「点検口の外し方・取付け方」（P14）を参照し取付けてください。



●真下排水タイプの接続の仕方

①排水ホースを排水円板に通します。
②排水ホースを排水管に差し込み、防湿キャップを取付けます。

管工事



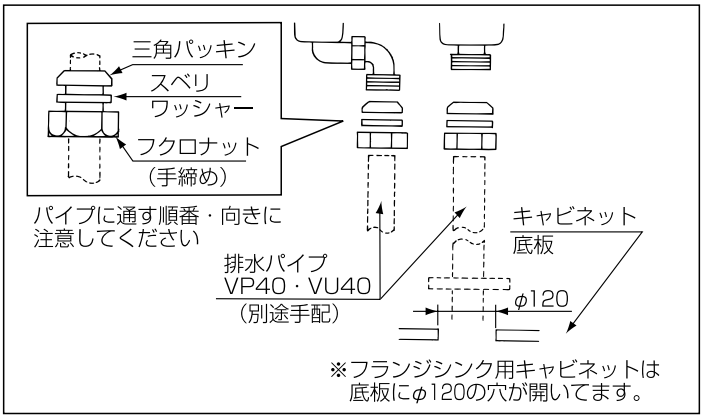
●（1）直管配管の場合 **管工事**

キッチンに付属のフクロナット、三角パッキン、スベリワッシャーを下図の通り、排水パイプ（VP40・VU40）に通し取付けてください。

排水パイプ（VP40・VU40）は別途部品手配となります。また、排水円板も別途手配となります。

真下排水タイプ（フランジ付シンクキャビネット）のとき

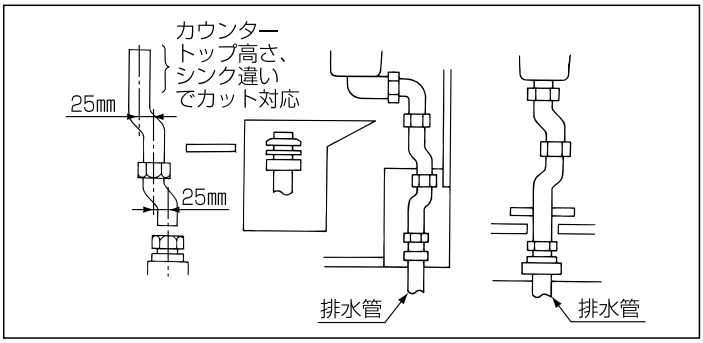
底板にφ120の穴が開いていますので、排水円板の手配に注意ください。



●（2）偏芯タイプの直管配管の場合 **管工事**

下図のように、排水管の立上げ位置がぶれた時に使用する。偏芯タイプの直管配管用パイプセット（別途設定品）について、直管配管パイプセットに同梱されている取付説明書を参照ください。

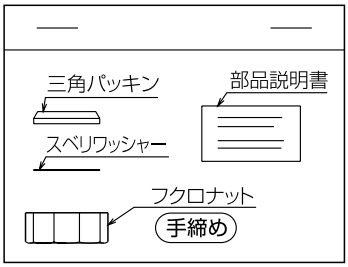
- 排水管との接続には、塩ビ用接着剤が必要となります。
- 排水管の立上げ位置のぶれ対応範囲は50㎜までです。



●（3）直管配管の場合の水漏れ確認

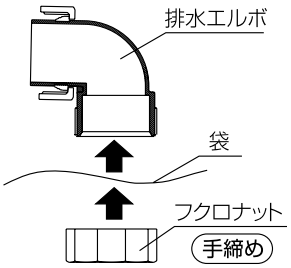
ワークトップ同梱の排水部品セット（フクロナット等）の梱包袋を使用してください。

①排水部品セットから排水部品を取り出し、袋に穴や傷がないことを確認してください。

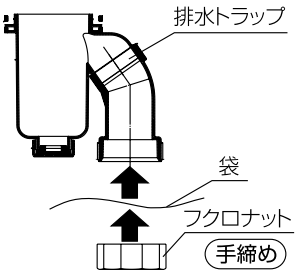


②下図のように、排水部品接続口に袋をあてて、排水部品セットのフクロナットをきつく締めこんでください。
※三角パッキン、スベリワッシャーは使用しないでください。

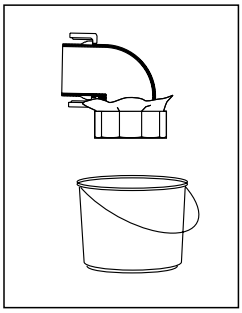
●後ろ振り排水トラップの場合



●ラクリーンシンク用トラップの場合



③排水部品接続口の下にバケツを用意し、シンク内に水をため、30分ほど放置します。
トラップの接合部から水漏れがないことを確認してください。
④水漏れを確認後、袋に穴をあけてシンク内の水をバケツに流してください。



11-5 封印シールの貼付け

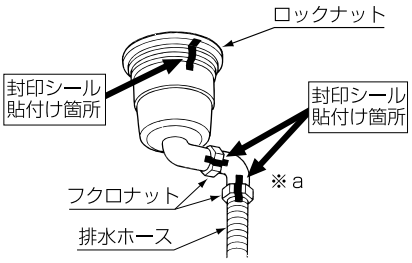
各部接続・水張り試験が終わり、漏水がないことが確認できたら、下図のようにトラップ排水経路に封印シールを貼付けてください。

⚠注意	封印シールは必ずロックナット・フクロナットをまたぐように貼付けてください。

後ろ振り排水タイプの場合

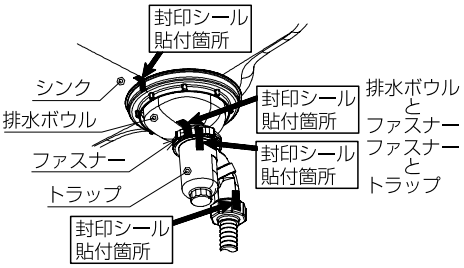
- センターポケットシンク
- 人造大理石シンク
- ラウンドシンク

封印シール 3枚



- ラクリーンシンク

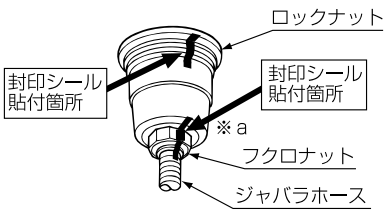
封印シール 4枚



真下排水タイプの場合

- フランジ付シンク

封印シール 2枚



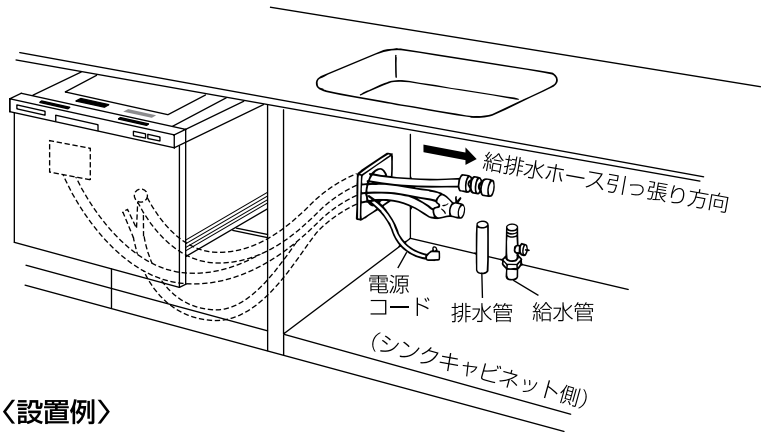
ロックナット、フクロナットをまたぐようにシールを貼ってください。

※a. 直管配管の場合は、排水パイプとフクロナット間には、封印シールは貼らずに、余った封印シールは回収する。
（管工事業者工事区分のため）

必ず実行

12 食器洗い乾燥機の配管および接続

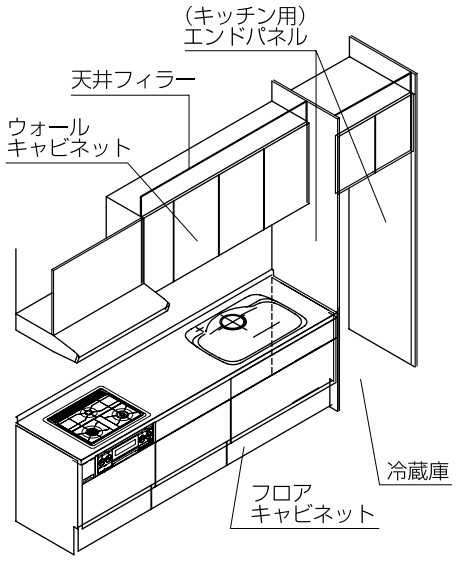
配管および接続については、食器洗い乾燥機に同梱の取付・設置説明書をご覧ください。 管工事

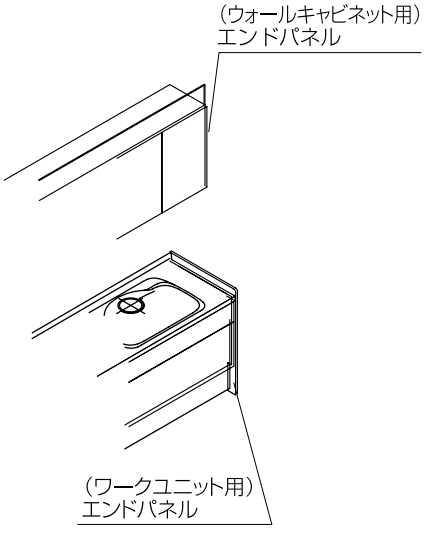


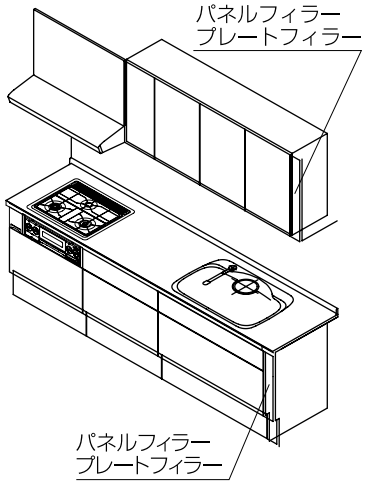
〈設置例〉

13 取付部材

■各部の名称







13-1 エンドパネル

商品名	形状	用途
皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）		連結用 エンドパネル固定用
TU固定金具		キッチン用 エンドパネル固定用

A．キッチン用エンドパネル

エンドパネルはH＝2,400㎜で納入されます。
（ハイ天井用はH＝2,700㎜で納入されます）

●キッチンの横に取付ける場合

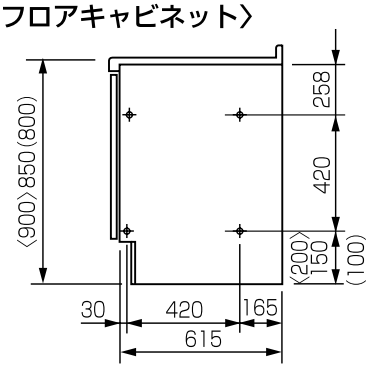
①高さを合わせて上部をカットしてください。
2,400㎜以上必要な場合は、ハイ天井タイプを使用してください。

②キャビネット連結用の穴を利用し、取付けてください。
連結用の穴があいていないキャビネットは、下図の位置にあけてください。フロアキャビネットには、連結用の穴があいてないキャビネットがあります。

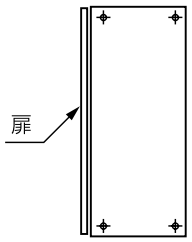
③位置を合わせ、キャビネット内側より同梱の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で固定してください。

●キャビネット取付け穴位置

〈フロアキャビネット〉



〈ウォールキャビネット〉

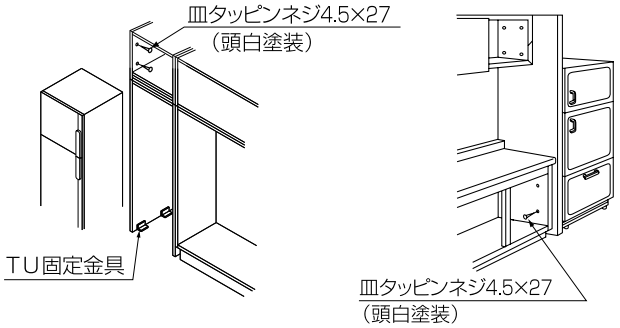


※〈 〉内寸法はワークユニットH＝900㎜を示す。
（ ）内寸法はワークユニットH＝800㎜を示す。

●冷蔵庫脇のエンドパネルの取付け

①同梱のTU固定金具で下側を床面に固定してください。

②上側は冷蔵庫上置キャビネットの連結用の穴を利用して同梱の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で固定してください。



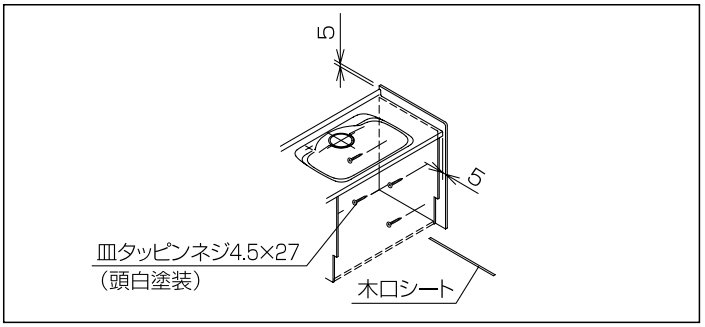
B．ワークユニット用エンドパネル

①ワークユニットH＝900のときエンドパネルはH＝955㎜で納入されます。
ワークユニットH＝850･800のときエンドパネルはH＝905㎜で納入されます。
ワークユニットの高さがH＝800㎜の時は、エンドパネルの下面をカットします。

②カットした面に同梱の木口シートを貼ります。

③キャビネット連結用の穴を利用し、取付けてください。

④同梱の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で固定します。

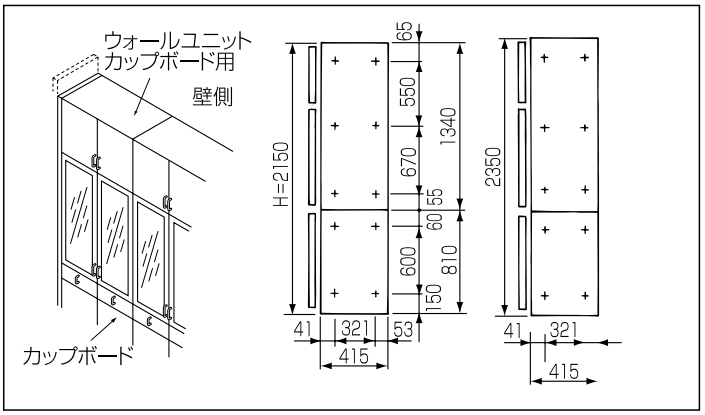


C．カップボード用エンドパネル

エンドパネルはH＝2,400㎜で納入されます。

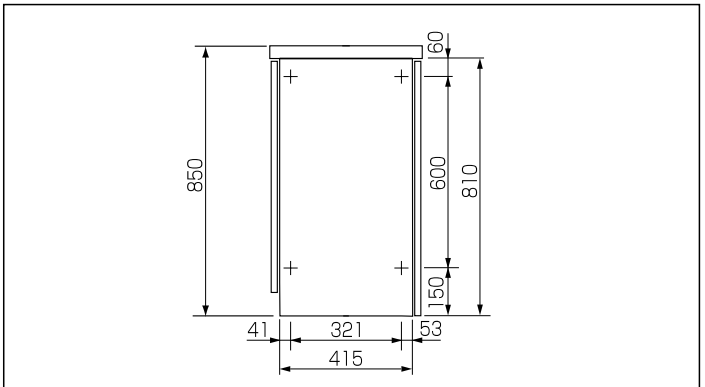
①高さを合わせて上部をカットします。

②位置を合わせ、キャビネット連結用の穴を利用し、同梱の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で固定してください。



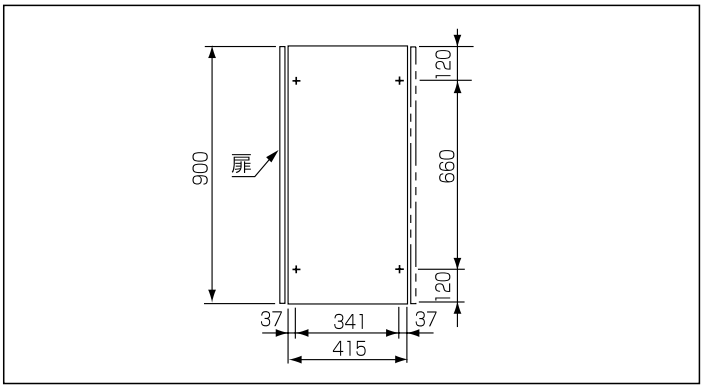
D．サービスカウンターユニット用エンドパネル

①位置を合わせ、キャビネット連結用の穴を利用し、同梱の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で固定してください。
連結用の穴があいていないキャビネットは、下図の位置にあけてください。



E．天吊型ウォールキャビネット用エンドパネル

①位置を合わせ、キャビネット連結用の穴を利用し、同梱の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）で固定してください。



13-2 天井フィラー

天井フィラーは、H＝220㎜で納入されます。
（ハイ天井用は、H＝450㎜で納入されます）

1. 取付・設置前の確認

●天井フィラー取付桟用の取付ネジは別途手配です。取付ネジはマルモク3.5×32を使用します。

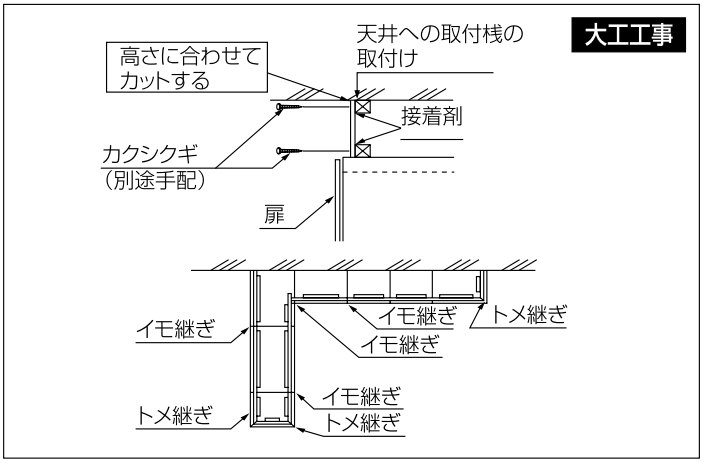
2. 取付桟の取付け

⚠警告

天井に取付桟が必要な場合
天井への取付桟の取付は関連する法令、規定に従って必ず「有資格者」がおこなう。

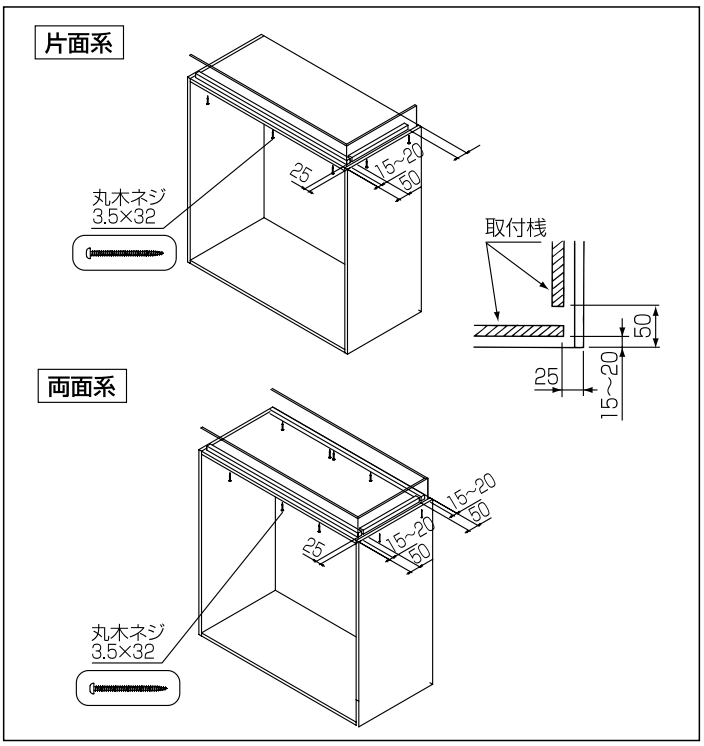
①取付桟をキャビネットごとにカットします。図の通り、キャビネット間口に対して50㎜程短く、奥行方向は100㎜程短くカットします。
②位置を合わせ、ネジで固定します。

天井への取付桟の取付は、**大工工事** 区分です。



3. 天井フィラーの取付け

現場で寸法合わせをし、カットしてください。
①天井フィラーを取付ける際、建築躯体に合わせてフィラーの削り合わせをし、出隅はトメ継ぎ、入隅はイモ継ぎで取付けてください。間口方向直線で継ぐ場合は、キャビネットの接合部と同じ位置で継ぎます。
②天井フィラーは、接着剤とカクシクギで固定してください。接着剤、カクシクギは別途手配です。



13-3 フィラー

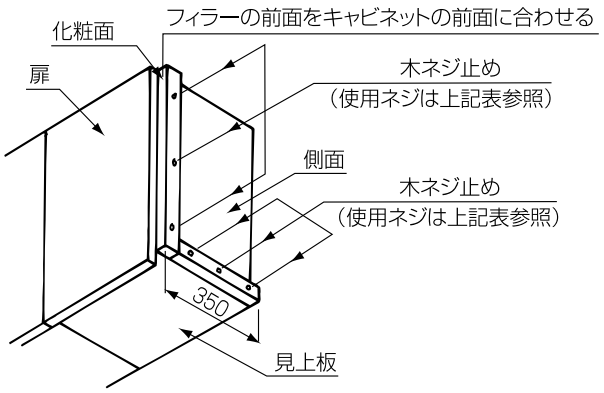
A. ウォールキャビネット・冷蔵庫上置き

A－1. プレートフィラー（巾＝5～30㎜）

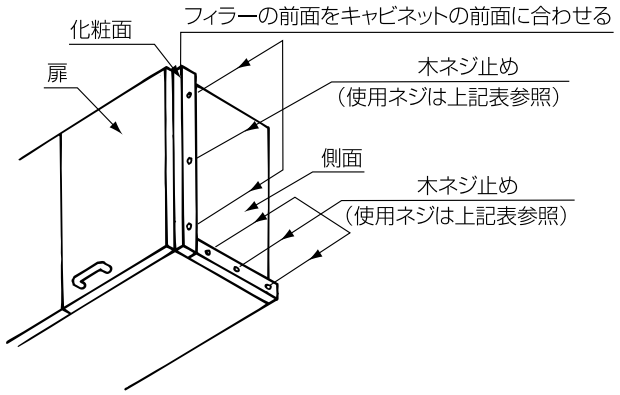
フィラーの前面をキャビネットの前面に合わせ同梱のネジで固定してください。

フィラーの厚み（㎜）	使用ネジ
5～8	皿木ネジ3.5×16
9～30	トラスタッピンネジ3.5×16

●ウォールキャビネットにトッテが無い場合



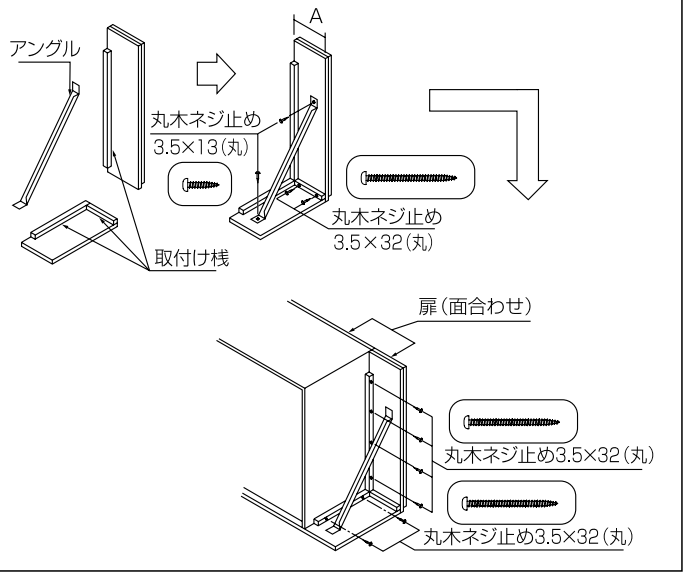
●ウォールキャビネットにトッテがある場合



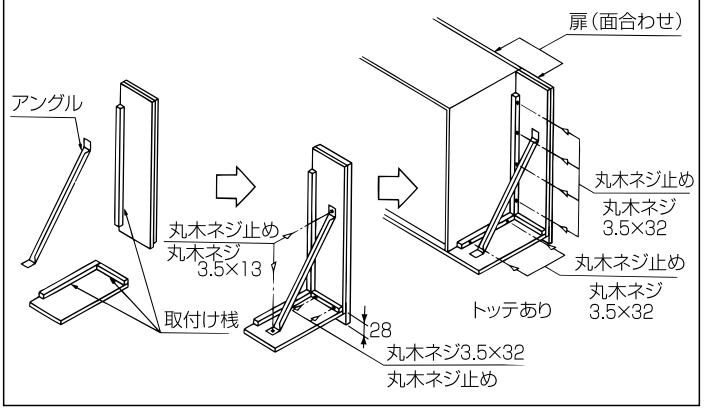
A－2. パネルフィラー（巾＝20～145㎜）

①フィラーを図のように組立てて、取付桟とアングルをフィラーの裏面に同梱の丸木ネジで取付けてください。
②フィラーと扉の面を合わせ同梱の丸木ネジで固定してください。

●ウォールキャビネットにトッテがある場合



●ウォールキャビネットにトッテがない場合



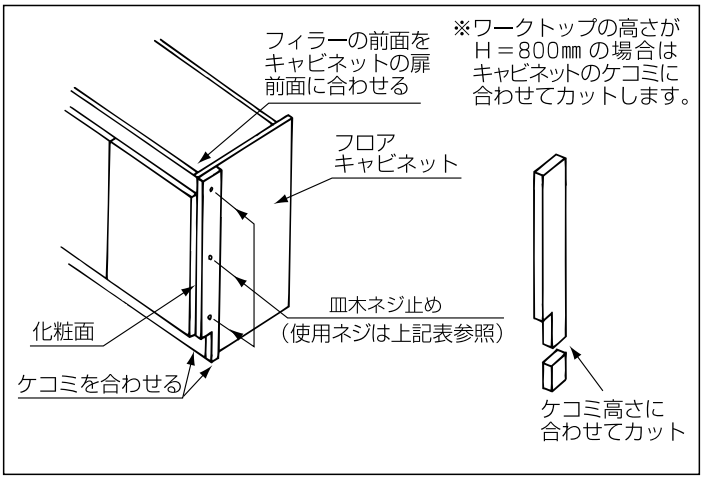
B．フロアキャビネット用

B－1．プレートフィラー（巾＝5～30㎜）

設置前の確認

フィラーの前面をキャビネットの前面に合わせ同梱のネジで固定してください。

フィラーの厚み（㎜）	使用ネジ
5～8	皿木ネジ3.5×16
9～30	トラスタッピンネジ3.5×16

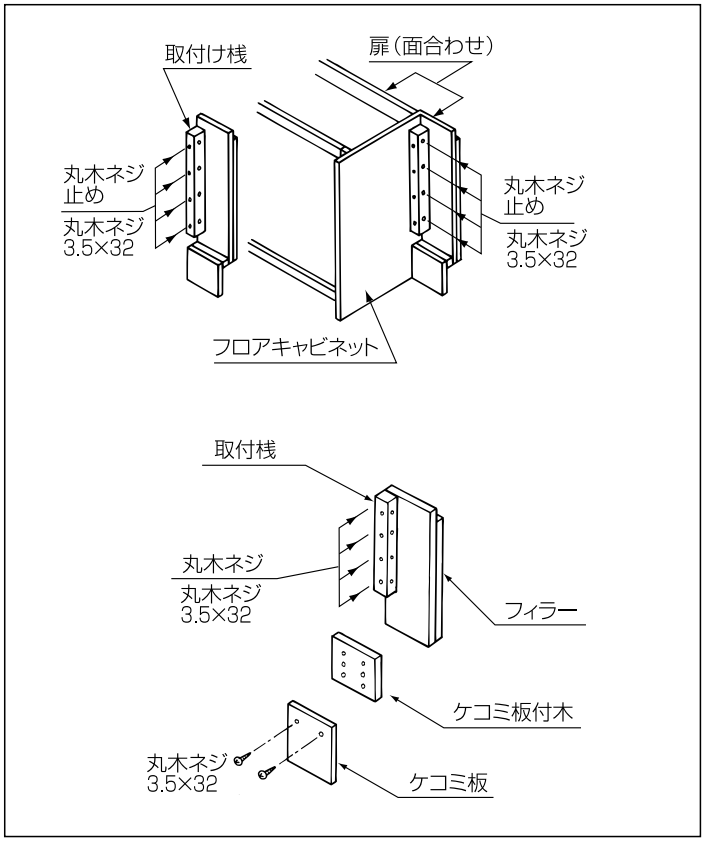


B－2．パネルフィラー（巾＝20～145㎜）

①取付桟をフィラーの裏面に図のように同梱の丸木ネジで固定してください。

②ケコミ板とケコミ板付木をフィラーに丸木ネジで固定してください。

②フィラーをフロアキャビネットに固定します。
フィラーと扉を面合わせしてから、丸木ネジでキャビネットの側板に固定してください。



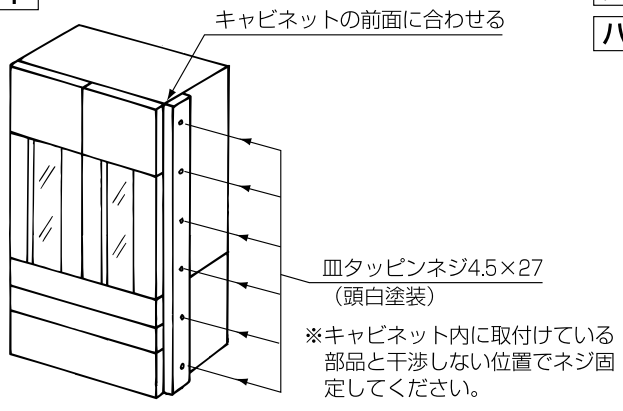
C．ダイニング用〈すき間埋め部材（ひも材）〉

・すき間埋め部材はH＝2.400㎜とH＝1.000㎜の設定があります。

①キャビネットの高さに合わせて上部をカットしてください。

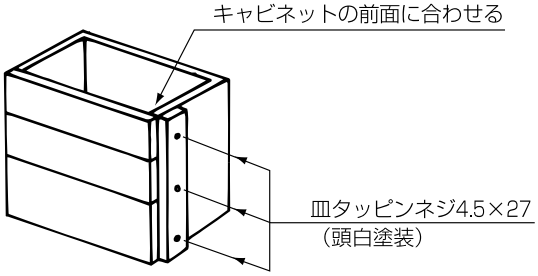
②キャビネットの前面とすき間埋め部材の前面を合わせて付属の皿タッピンネジ4.5×27（頭白塗装）でネジ固定してください。

カップボード



ダイニングカウンター

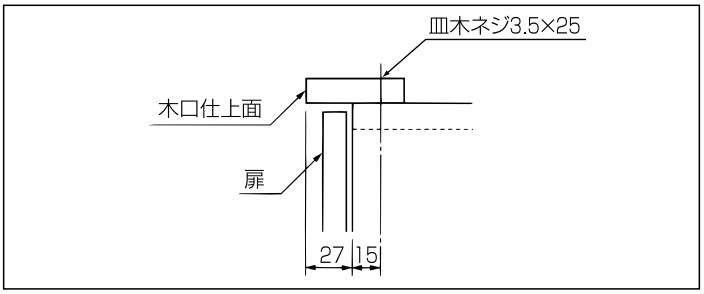
ハイカウンター



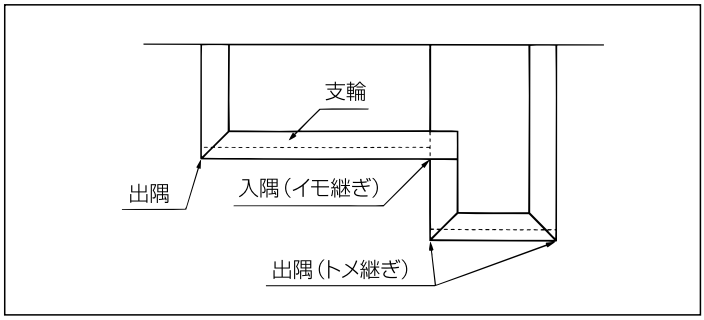
13-4 支輪の取付け

●取付けネジは別途手配です。取付けネジ皿木ネジ3.5×25が最適です。
●固定は、キャビネット内部、支輪側どちらでも可能です。

①取付間口、レイアウト等を確認し寸法出しをしてください。支輪とキャビネットの出しろは、キャビネット前面より支輪を27㎜出して取付けます。



②支輪取付けの際、出隅はトメ継ぎ、入隅はイモ継ぎ、奥行き方向は側板外面合わせを基本に取付けてください。

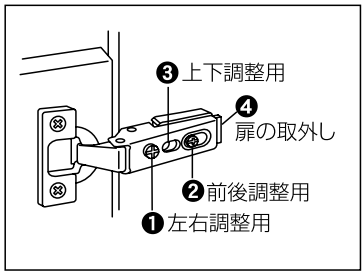


14 調整方法

14-1 扉の調整方法

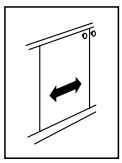
扉は左右や前後のズレがないように取付けられています。微調整が必要なときは丁番の❶·❷·❸のネジでおこなえます。

扉を取外したいとき
ワンタッチ丁番の尾の❹部分（矢印部）を下から押上げると簡単に外れます。取外す際は、扉をしっかり支えながらおこない、扉やキャビネットを傷付けないよう気をつけてください。

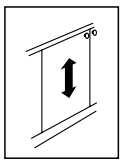


⚠注意
工事終了後、扉の傾き、ガタつき、丁番のゆるみがないことを必ず確認してください。
使用中に扉が落下して、けがをするおそれがあります。

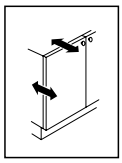
●左右調整
❶のネジを右に回すと丁番側に移動し、左に回すと丁番の反対側に移動します。



●上下調整
上下の扉が片寄っている場合は、❸のネジを緩めて座金の位置を調整します。
（上下2本の丁番を調整してください。）



●前後調整
前後の開きは❷のネジで調整できます。



●調整後の確認
扉調整後は、すべての丁番の❷と❸のネジが締め付けられていることを確認してください。

14-2 扉キャッチの調整方法

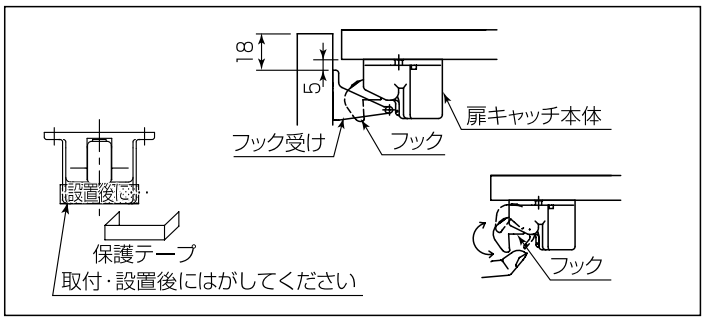
※扉キャッチの調整は、必ずキャビネットの設置・扉の調整をした後におこなう。

1. 設置方法

1. フック受けの調整
フック受けのネジをゆるめ基準位置に調整し、ネジをしめ付けてください。

2. 保護テープをはがす
扉キャッチ本体に貼付けてある保護テープをはがし、フックがスムーズに上下するか確認してください。

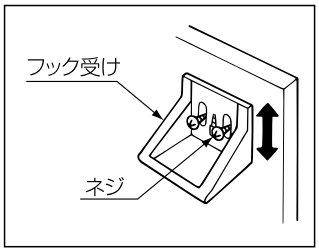
3. 開閉確認
扉をゆっくり開閉しながら、扉が正常に開閉することを確認してください。
扉を開けた時にフックが上がった状態であることを確認してください。



2. 調整方法

フック受けを固定しているネジをゆるめ、上方向2㎜・下方向2㎜の範囲で調整し、ネジをしめ付けてください。

〈扉キャッチ許容範囲〉
フック受けの許容範囲は、基準位置に対し±2㎜



⚠注意
フック受けの調整は確実におこなう。
フック受けが正しい位置に付いていないと、扉キャッチが正常に動作しません。

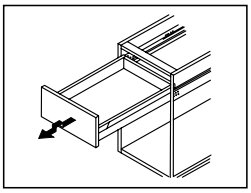
※動作原理 振動があると、フックが常に下がった状態となり、フック受けを拘束し扉が開かなくなります。

14-3 スチール製引出し(グレー)タイプの調整方法

■引出しの取外し・取付け

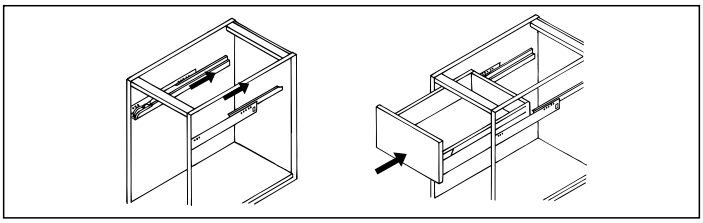
1. 引出しの外し方

引出しを全開にし、いちど少し上に持ち上げてから引いてください。



2. 引出しの取付け方

引出しをレールにのせ、そのままキャビネットの中へ押込みます。“カチャ”という音で正しく入ったか確認できます。

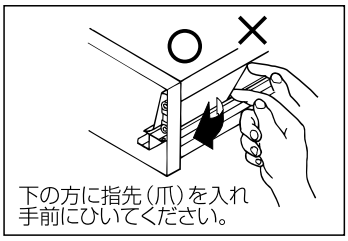


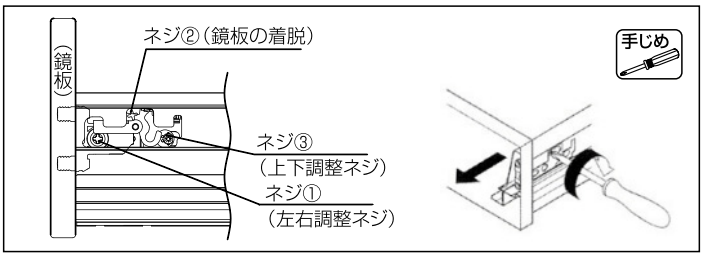
■鏡板の着脱方法

1. 外し方

1-1. キャップを指で引っ掛けて取外します。

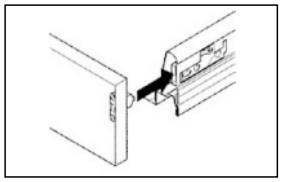
1-2. プラスドライバーをネジ②に差し込み、右に回すと外せます。





2. 取付け方

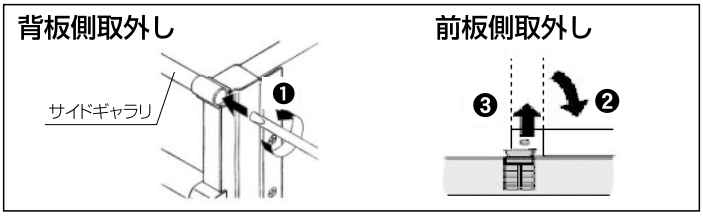
鏡板をそのまま引出しに押し込みます。



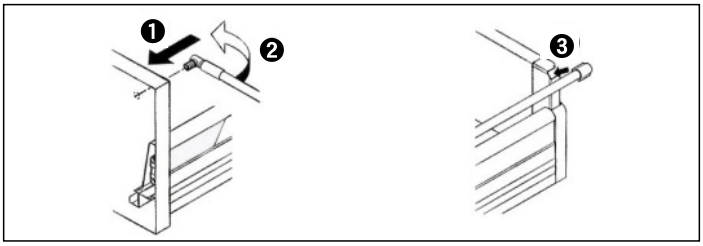
■サイドギャラリの着脱方法

1. サイドギャラリの外し方

マイナスドライバーをサイドギャラリの後部へ差し込み、ひねると外れます。



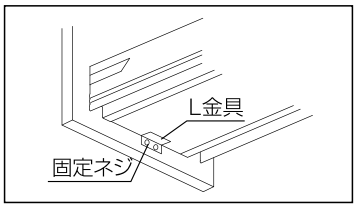
2. サイドギャラリの取付け方



3. アシストポケットタイプのキャビネットのときは、サイドギャラリにサイドフェンスが付いています。
アシストポケットのサイドフェンスを取外してからサイドギャラリを取外します。
サイドギャラリの取外しは「サイドフェンス取外し・取付け」を参照してください。

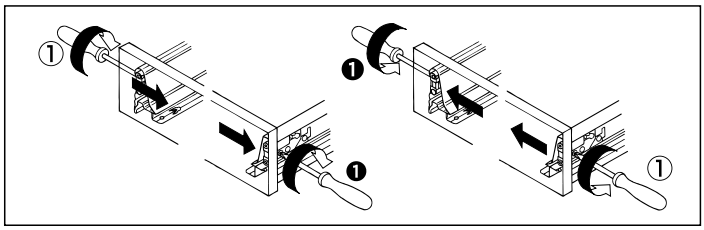
■鏡板の左右・上下・あおり調整

1. 間口60㎝以上の引出しは調整する前にL金具の固定ネジをゆるめてください。
調整後、しめつけてください。



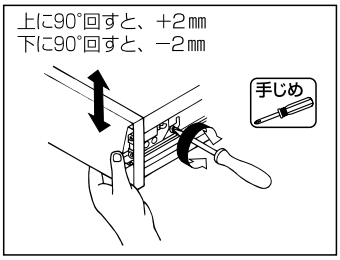
2. 左右調整

図のネジ①で左右調整をしてください。



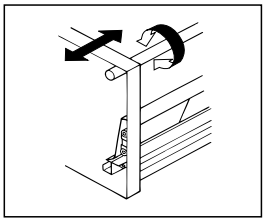
3. 上下調整

図のネジ③で上下調整をしてください。



4. 前板の傾き調整

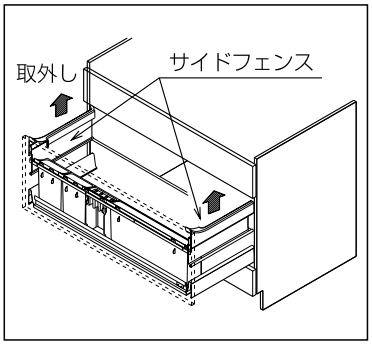
サイドギャラリーを回すと、サイドギャラリーの長さが変化します。これで傾きを調整します。

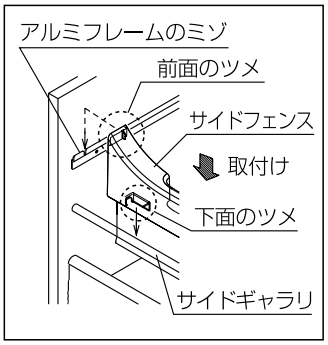


■アシストポケットのサイドフェンス取外し・取付けと鏡板の調整

1. サイドフェンスの着脱方法

- 下図のようにサイドフェンスを上に引き上げると外せます。
- サイドフェンスを取付けるときは、フェンス前面のツメをアルミフレームのミゾに、サイドフェンス下面の前後のツメをサイドギャラリに引っかけるように取付けます。





2. 鏡板の調整

サイドフェンスを取外し後、「鏡板の左右・上下・あおり調整」を参照し調整します。

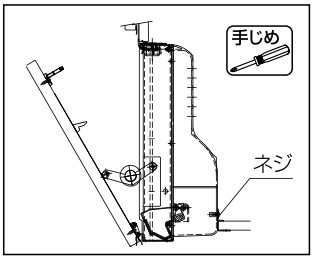
■ドアポケットの着脱方法、調整方法

1. 着脱方法

右図のネジを外してから、引出しの鏡板の着脱方法と同様に外します。

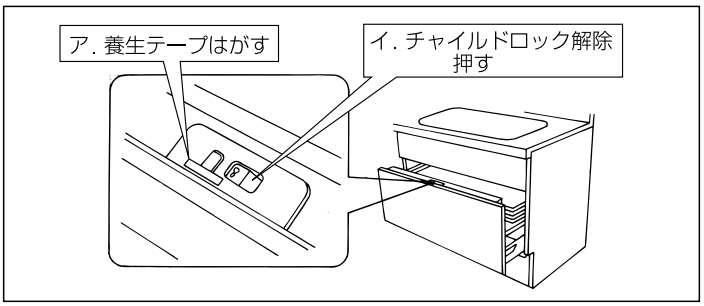
2. 調整方法

右図のネジをゆるめてから、引出しの鏡板の調整方法と同様に調整します。



■ドアポケットの開閉プッシュ力の調整

①ア. 養生テープをはがし、
　イ. チャイルドロックを解除します。

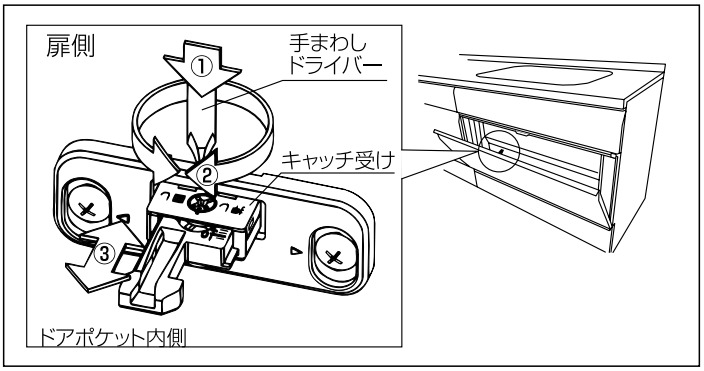


② ドアポケットの開閉プッシュ力が極端に重い、軽い場合は、以下の調整を行います。

●キャッチ受け操作方法

キャッチ受けの十字穴に手まわしドライバーを差込み、①押し込みながら②回すと、③キャッチが伸縮します。

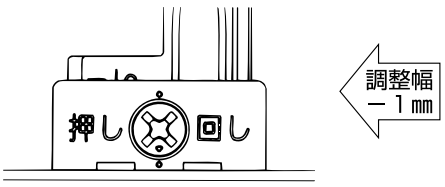
- ②は360° 回転しながら伸⇔縮を繰り返します。
- ③の調整範囲は基準位置から－1㎜～＋2㎜です。
- 手まわしドライバーを抜くと、キャッチ受けの伸縮がロックされます。



●キャッチ受け調整方法

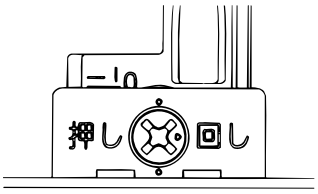
〈軽い場合〉

キャッチ受けを縮めると開閉プッシュ力は重くなります。



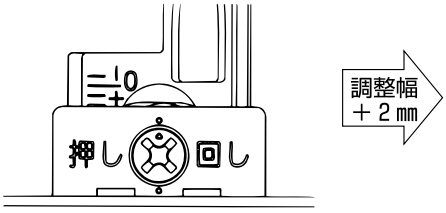
〈基準位置〉

工場出荷時は0の位置（基準位置）にセットされています。



〈重い場合〉

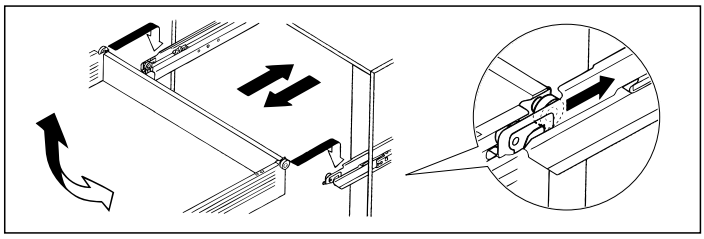
キャッチ受けを伸ばすと開閉プッシュ力は軽くなります。



14-4 スチール製引出し（白色）タイプの調整方法

■引出しの取外し・取付け

完全に引出した状態で持ち上げ、そのまま引出しを外します。取付は引出しについているローラーとレールがかみ合うように引出しを入れてください。

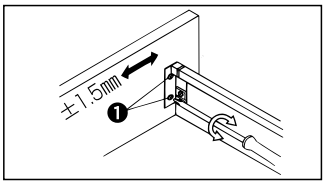


■鏡板の左右・上下調整および着脱方法

〔引出し鏡板の調整〕

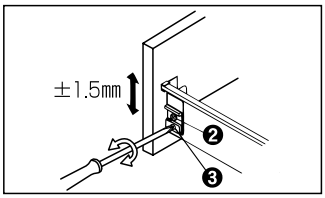
1. 左右調整

❶のネジ（左右）をゆるめると左右に鏡板が動かせます。



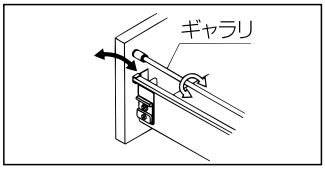
2. 上下調整

❷のネジをゆるめ❸のネジを回すと上下に鏡板が動きます。調整後❷のネジをしめます。



3. 鏡板のあおり調整

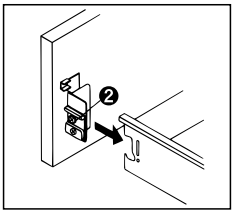
ギャラリを左右に回しあおりを調整してください。



■鏡板の着脱方法

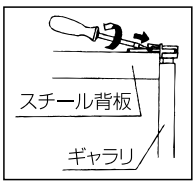
1. 鏡板の取外し

❷のネジ（左右）をゆるめて鏡板を取外してください。

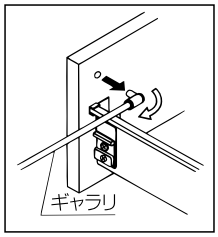


2. ギャラリの取外し

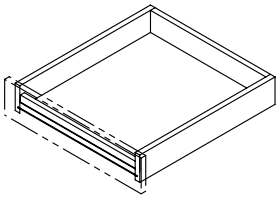
スチール背板の後部に引っ掛けているギャラリの爪をマイナスドライバーで外してください。



ギャラリを図のように折り曲げ、ギャラリを取外してください。

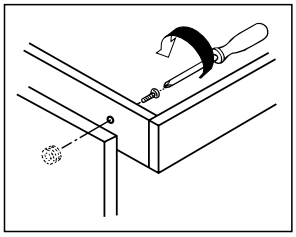


14-5 木製引出しの調整方法

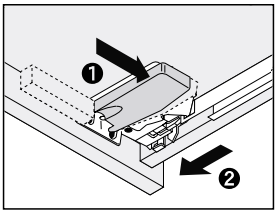


1. 鏡板の左右、上下調整

①鏡板と引出しを固定しているネジをゆるめます。
②左右、上下調整をおこないます。
③調整後、ネジをしめ直します。

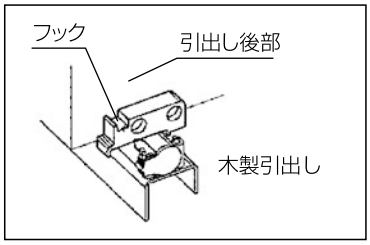


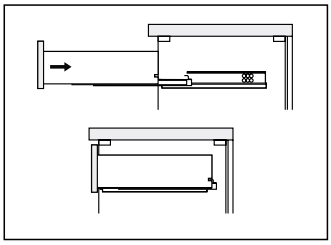
2. 引出しの取外し
①着脱クラッチのレバーを押す。
②引出しを手前に引きはずす。



3. 引出しの取付け
レールの後部のフックを受けに確実に入れる。
入っていないと引出しが外れるおそれがあります。

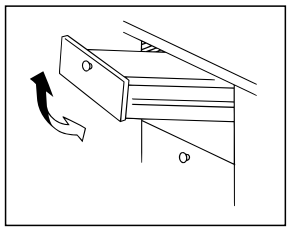
レールにのせてそのまま押し込みます。



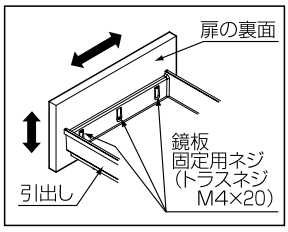


14-6 プラスチック製引出し（白色）タイプの調整方法

■引出しの取外し・取付け
完全に引出した状態で持ち上げ、そのまま引出して外します。
取付けは取外しの逆の操作をしてください。



■鏡板の左右、上下の調整
①鏡板を支えながら、鏡板を固定ネジをゆるめます。
②鏡板を動かします。
（上下･左右に±2㎜調整できます。）
③鏡板固定ネジを締め付けます。



15 仕上げ・付属部品の取付け

15-1 目地処理をする

⚠警告

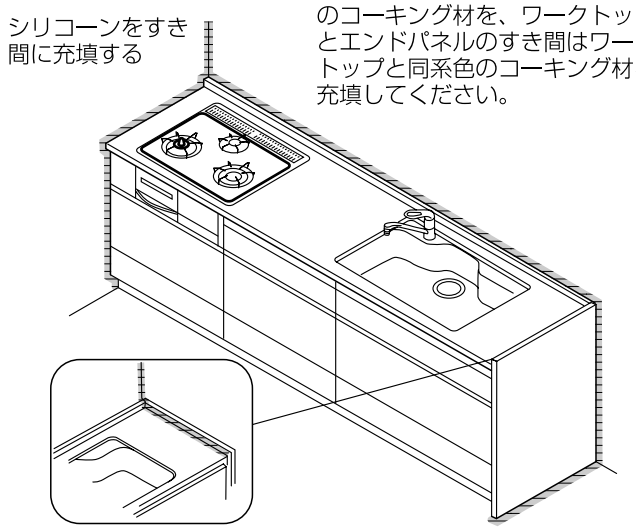
コーキング材を充填する場合、部位によって内装工事となる場合があります。建築壁とワークトップの間の目地処理は、関連する法令・規定に従って必ず「有資格者」がおこなう。キッチンパネルとワークトップの間は「有資格者」がおこなう必要はありません。

⚠注意

カウンターと、壁またはエンドパネルの合わせ部はコーキング材を充填する。
埋め方が不完全な場合、水こぼれでユニットやエンドパネル、および床や壁をいためるおそれがあります。

内装工事

ワークトップとキッチンパネルのすき間はキッチンパネルと同系色のコーキング材を、ワークトップとエンドパネルのすき間はワークトップと同系色のコーキング材を充填してください。

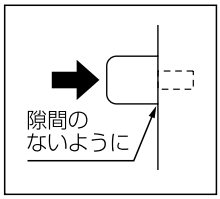


15-2 扉キャッチ

「扉キャッチ」の保護テープをはがしてください。

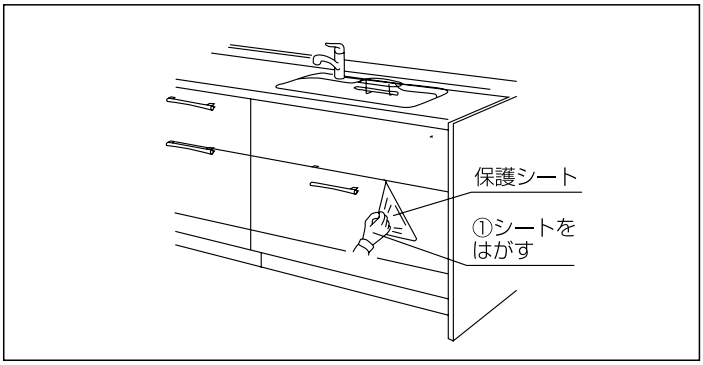
15-3 棚板のセット

棚受けは隙間のないように奥まで差込み、棚板を確実に乗せてください。



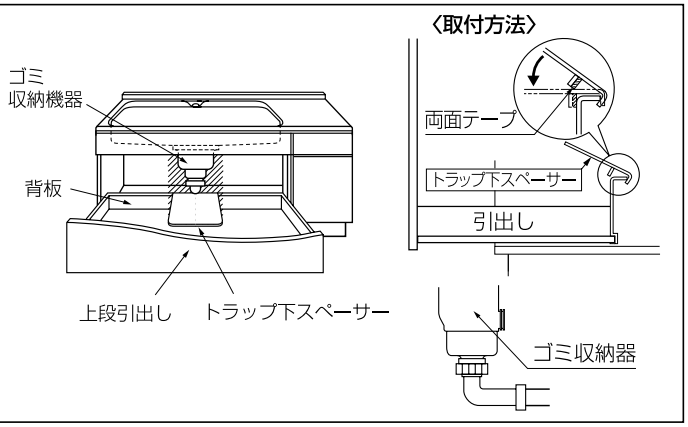
15-4 保護シートをはがす

保護シートのはってある扉・取付部材は、下図のようにシートをはがしてください。
トッテのある場合、トッテを１度取外し保護シートをはがしてください。
トッテを取付けてからはがすと、トッテ部にシートが残ります。



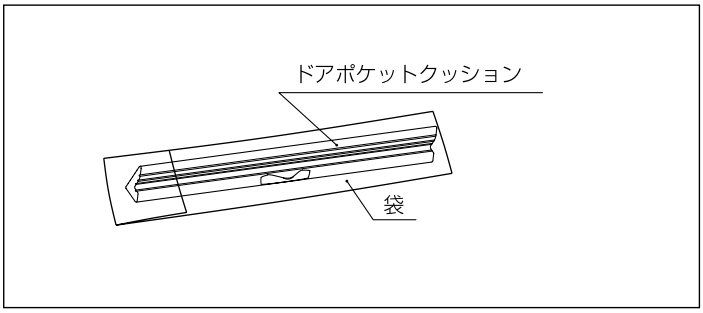
15-5 シンクキャビネットの（引出しタイプ）トラップ下スペーサーの取付けについて

引出しの背板に同梱のトラップ下スペーサーを取付けます。トラップ下スペーサーは必ずゴミ収納器の真下にくるように取付けてください。



15-6 ドアポケットクッションについて

ドアポケットクッションはオプション設定です。ドアポケットクッションが納品されていましたら、ドアポケットクッションは袋から出さず、ドアポケット内に入れておいてください。
ドアポケットクッションが入っている袋にはお客さま用の説明文が印刷されています。



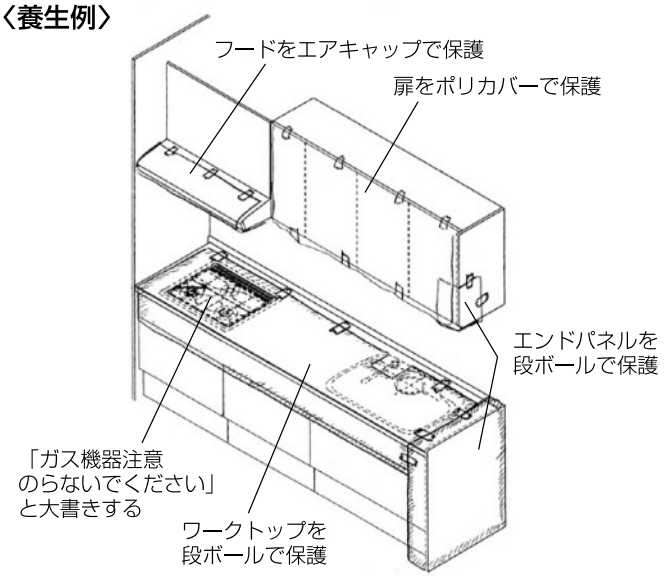
16 取付・設置担当者へのお願い

16-1 清掃と養生

●取付・設置後のキャビネットや扉のホコリ・汚れは、やわらかい布で拭き取ってください。家具用ワックスやシンナー、アルコールなどの溶剤または研磨剤の入った洗剤は使用しないでください。変色したり、光沢をなくしたりして、扉やキャビネットの表面を傷めます。
●取付後、内装工事などの後工事がある場合は養生をおこなってください。

- ●養生につかう段ボールは梱包材を使用してください。
- ●加熱機器等があることがわかるように図のような注意文を大書きしてください。
- ●養生につかうテープは粘着力の弱いものを使用してください。

〈養生例〉



16-2 取付・設置後のチェック

●キャビネットが床面に確実に固定されているか確認してください。
完了報告書に従って確認してください。

⚠注意 扉の傾き、ガタつき、丁番のゆるみがないことを確認する。

使用中に扉が落下して、ケガをするおそれがあります。

16-3 後工事の説明と引継ぎ

●建築工事側でおこなっていただく後工事は、必ず建築工事担当者に引き継いでください。
●取扱説明書は確実にお客さまに届くよう配慮してください。

16-4 廃棄処分について

●廃棄処分の際は、必ず専門業者に依頼してください。

株式会社 LIXIL
http://www.lixil.cp.jp/
7056854 B1 セコウセツワークウォール 11.03 KAP